

特51-810



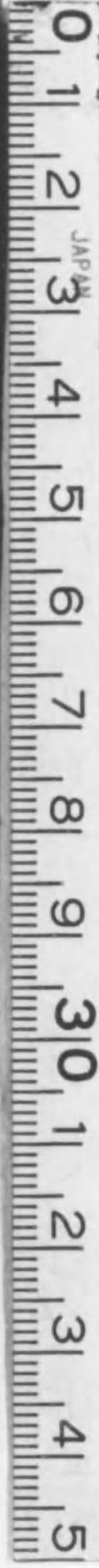
1200800230765

特51

810

佐賀國幅地質説明書

国立国会図書館



始



22

Zone 5, Col. III.

SAGA.

佐賀圖幅地質說明書

地質圖幅地質調査

特51
810



佐賀圖幅地質調査ハ明治三十二年春期ニ施行シタル
本圖幅ノ如キ數多ノ炭坑ヲ配置スルモ
ノニ在テハ踏查シタル當時ト今日トハ鑛業ノ景況ヲ
異ニスルモノアラシク要スルニ踏查シタル當時ノ景況
ヲ陳述シ以テ茲ニ後日ノ參考ニ資セントス

明治三十四年六月



佐賀圖幅地質說明書正誤

丁數	行數	誤	正
九	一	諸岩層 Amphibolite	該岩層 Amphibolite
一五	一三	東南部へ	東南部ニ於テ
一七	三	山麓	山鹿
二二	九	微品質	微品質
二三	八	微品質	微品質
五四	一三	下炭層炭	下層炭
六六	一二	ナラレ	ナラン
七七	六	三里及試錐	三里試錐

寄贈本

佐賀圖幅地質說明書目次

第壹章 地形

自一丁至六丁

區域

地勢

第貳章 地質

自六丁至二四丁

地質類別及岩石配布

水成岩類

古生層

輝岩及角閃片岩層(御荷鉢層?)

秩父古生層(上中部)

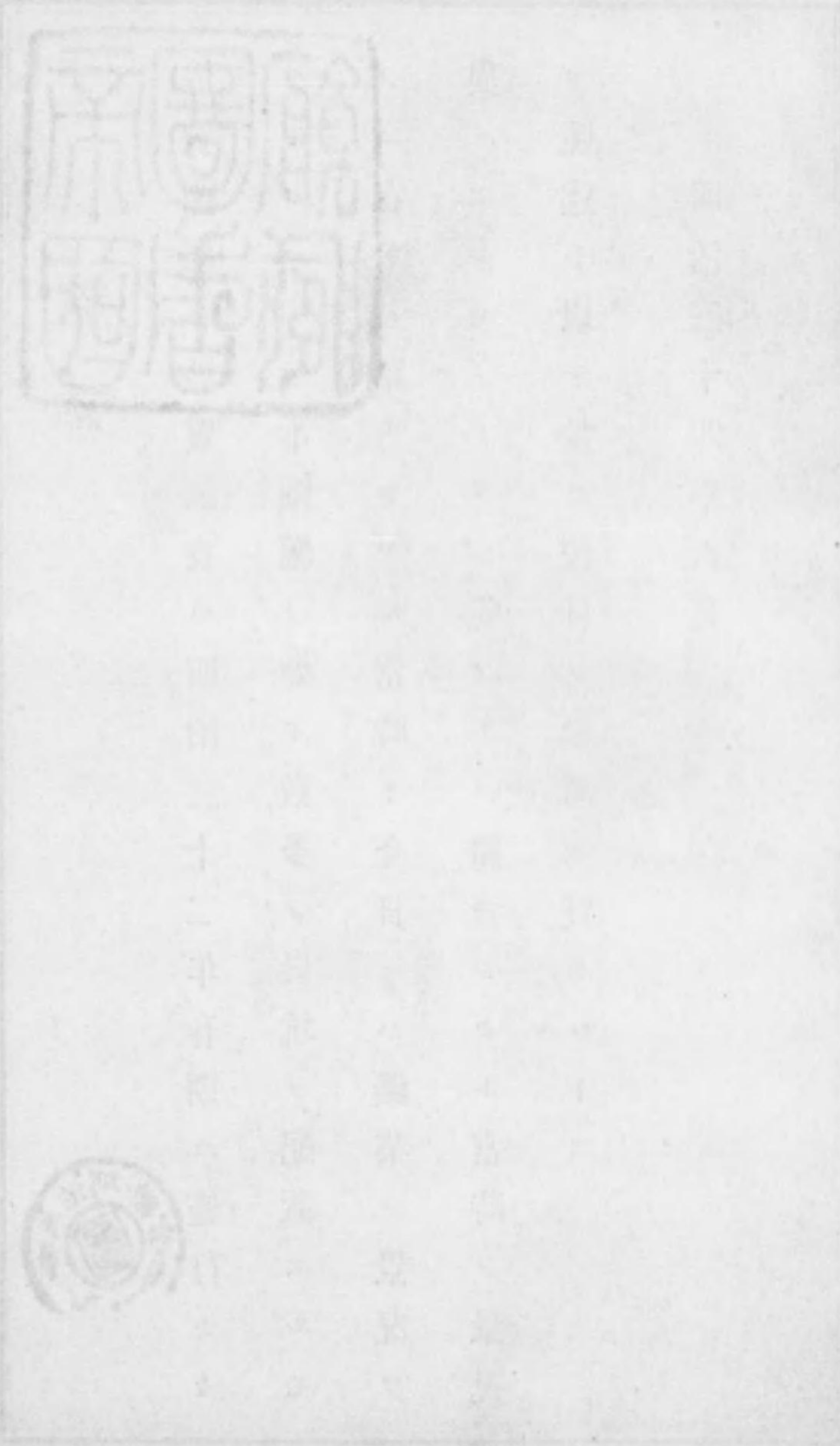
第三紀層

第四紀層

洪積層

冲積層

一 六 五 五 三 二 〇 九 九 六 二 一



灰石層

噴出岩類

花崗岩

閃綠岩

蛇紋岩

石英粗面岩

英輝安山岩

輝石安山岩

雲母安山岩

角閃安山岩

玄武岩

灰石(熔岩)

二

一六

一七

一九

二〇

二〇

二二

二二

二三

二三

二四

二四

第參章 應用地質

礦床

自二四丁至一〇三丁

二四

石炭

杵島郡炭田

一、北方炭山

二、杵島炭山

三、市村炭山

四、十三塚炭山

五、燒米炭山

六、火保田炭山

七、福母炭山

武雄、鹽田村間ノ炭層

(一) 永島近傍ノ炭田

(二) 大日炭山

(三) 久間炭層

(四) 永野炭層

二四

二四

二五

二八

三一

三三

三五

三六

三六

三九

三九

四一

四二

四三

三

小城郡炭田

- 一、宮ノ浦平山炭坑
- 二、山仁田炭坑
- 三、「リン」ノ_レ辻舊坑
- 四、長池炭坑
- 五、銅谷炭坑
- 六、蜂ノ巢炭山
- 七、遠見山炭山
- 八、内浦炭坑
- 九、正院谷附近炭坑
- 十、油木原炭山
- 十一、別府炭坑

東松浦郡炭田

- 一、峠炭坑

四三
四三
四四
四四
四六
四七
四八
五〇
五二
五二
五四
五五
五五
五五
五七
五七

- 二、大谷炭坑
- 三、波瀬、富谷炭坑
- 四、岩屋炭坑
- 五、本山炭坑
- 六、鹿兒岩炭山
- 七、平山大光炭坑
- 八、平山尾部田炭坑
- 九、相知炭山
- 三池炭山

歴史

地形

地質

金屬鑛床

星野近傍金山

五八
五九
六一
六三
六四
六六
六七
六八
六八
六八
七二
七三
七三
七四
七六
七八
七八

佐賀圖幅地質説明書

第壹章 地形 區域

農商務技師
理學博士

大塚 專一

佐賀圖幅ハ全國圖幅中ノ横行(5)縱行(II)ノ位置ヲ占メ其區域北緯三十度ヨリ同三十分ニ至ル、東經百三十度ヨリ百三十一度ニ至ルノ間ニ位シ九州ノ一部ヲ占ム、圖幅ハ北ニ福岡、南ニ熊本、東ニ平戸、西ニ大分ノ四圖幅ニ隣接ス、其包括スル地ハ佐賀縣ニ在テハ三養基、神崎、佐賀及小城郡ノ全部、杵島郡ノ大半、藤津及東松浦郡ノ一部、西松浦郡ノ隅角ト、福岡縣ニ在テハ三潁、山門、三井、浮羽、三池及八女郡ノ全部、朝倉郡ノ大半、糸島、早原、筑紫、嘉穂、田川及下毛郡ノ南部ト、熊本縣ニ在テハ玉名、鹿本及菊池郡ノ北部、阿蘇郡ノ一端ト、大分縣ニ在テハ日田郡大半等ナリトス、圖幅陸地全面積約四千六百八十四平方基米突アリテ平地人口稠密ニ

一、星野金山	九〇
二、柏田金山	九一
三、星野金山合資會社	九二
四、鯛生村近傍鑛脉	九四
横山銅山	九七
佛野銅山	九八
陶土及鏡土	九九
砥材	一〇一
建築石材	一〇二
鑛泉	一一

シテ數多ノ繁盛ナル市町村ヲ散在ス

地勢

本圖幅ハ筑紫郡二日市ヨリ有明海ニ朝宗スル筑後川平原ニ依リ東西區劃ニ切半セラレ、各地貌ヲ異ニシ、西北隅ニ日本海ノ入江スルアリテ南ニ有明海ヲ擁シ、西ニ肥前半島ノ一部ニ島原ノ火山彙群立シ、有明海ヲ隔テ、圖幅東部ナル筑肥山阜ト相對ス
圖幅ノ海面積ハ約四百八十二平方基米突アリテ圖幅全面積ノ約十分ノ一ヲ占ム、而シテ陸地面積ニ於テ千百九平方基米突ハ平地ニ屬シ爾餘ノモノハ山阜ニ屬ス、平地ハ筑後川平原ノ沃土平野ヲ爲シ佐賀、久留米川及柳河ノ繁盛ナル市街ヲ有ス

圖幅ノ西北部ヲ略、東西走スル山、巒ハ筑紫山脈ノ一部ニシテ、西南ニ肥前半島ノ島原火山彙ノ噴出アリテ山脈ヲ南北ニ横斷スルノ狀ヲ呈ス、而シテ其東西ニ趨走スル山脈ハ肥前及筑前ノ國堺ヲ爲シ其高キモノヲ背振山海抜千〇三、金山海抜千、雷山海抜九百六、獅子舞嶽海抜九百六、浮嶽海抜四百八十

四米等トス、小城郡ニ突峙スル彦嶽海抜八百及天嶽海抜千四ハ該山脈ヲ貫

キ顯出シタル噴出岩ノ爲ニ、西部ノ瀬戸木塙嶽海抜六百五八幡嶽海抜七百

鬼ヶ鼻海抜四百六鳥泊山海抜三百十ノ突峰ヲ爲シ散在スルモノハ新火

山岩ノ噴出ノ爲ニ隆起シタルモノナリ

圖幅切半ノ東部ニ筑豐國界ヲ爲シ、即チ北ニ彦山海抜千三百ヨリ南ニ熊

度山海抜四百九釋迦嶽海抜千二百三國嶽海抜千霧越嶽海抜千八等ヲ經テ阿蘇

群峰ニ連ナル火山脈アリ、其西邊ニ東西ニ亘ル耳納山ノ隆起ヲ爲スモ

ノハ古生層ヨリ成リ九百乃至六百米突ノ高サヲ有シ尙ホ南ニ八女郡

ノ南部ヨリ三池郡ニ亘リ并趨スル低起伏ノ古生層ヲナセリ

圖幅東部ニ於テハ火山岩殊ニ著シク、山間ノ低地ニ灰石ヲ堆積シ地味

貧瘠、國界ニ聳立スル火山岩脈ハ岬峨タル山貌ヲ有シ地形自カラ前章

ノ筑紫山脈ト異ナルアリ

有明海ハ其東邊ナル玉名及三池郡第三紀層ト西邊ナル杵島郡同紀層

ト向斜狀盆地ヲ爲スモノ、如シ

九州鐵道線路ノ福岡圖幅ヨリ本圖幅ニ入ルモノ鳥栖驛ニ於テ長崎及八代ノ二線ニ分岐ス、而シテ其長崎線ハ牛津驛ニ於テ更ニ唐津線ニ分岐ス、故ニ本圖幅ハ稍交通ノ便アルモノトス

河流、筑後川ハ東部ノ山脉ヲ横斷シ圖幅ノ東南ナル延岡圖幅ノ阿蘇嶽ニ發源シ北流シテ日田郡尾ノ嶽、三國嶽ニ發源スル支流ヲ合セ、尙ホ北流シテ隈町ニ於テ彦山及大分圖幅ヨリスル支流ヲ合セ、流域西方ニ轉シ、久喜宮、飯田等ヲ經テ久留米市ニ至リ、北部ノ二日市近傍ノ山嶽ニ發源セルトク川ヲ合セ、久留米平源ヲ灌流シテ有明海ニ朝宗ス、隈町以西下流ニ揖舟ノ便アリ

矢部川ハ筑豐國界山脉タル八女郡竹原峠近傍ノ山嶽ニ發源シ、西流シテ福島町近傍ニ至リ星野金山地方ニ發源スル星野川ヲ合セ、西南流シテ矢部川トナリ有明海ニ朝宗ス、其瀬高村ヨリ柳河町ニ分岐スル二三ノ支流相合シテ沖端川トナリ又之ニ朝宗ス

圖幅東部區域ノ南部ニ熊本圖幅ヨリ屈曲シテ流過スル菊池川アリ

嘉瀬川ハ肥前神崎郡金山、小城郡猫嶽、獅子舞嶽、三ツ瀬山等ニ發源スル支流ヲ合セ三反田村ヨリ南流駄市河原ヲ過キ佐賀平原ヲ灌漑シテ有明海ニ入ル

武雄川ハ平戸圖幅ヨリ本圖幅ニ注入シ北方村近傍ニ至リシホミ川ヲ合セ東流シテ其咽喉近傍ニ至リ多久及多久原村ヨリスル支流ト合シ朝宗ス、北方村ノ東方ナル志久村ヨリ下流舟運ノ便アリ

東松浦郡瀬戸木場嶽及嚴木村地方ヨリスル溪流相知村ニ至リ滙合シ是ヨリ下流唐津ニ至ル間舟運ノ便アリ

藤津郡ノ鹽田川ハ平戸圖幅ヨリ本圖幅ニ入り熊本圖幅多良岳ニ發源スル諸支流ヲ集メ鹿島町ノ北ニ於テ朝宗ス

筑紫山脉ノ北邊ニ發源スル諸溪流ハ福岡圖幅ニ入ル

以上河流ノ外ニ諸支流アリト雖モ著シキモノヲ認メサレハ茲ニ省略ス

海岸、有明海ハ遠淺ニシテ本圖幅ノ沿岸ニ良港ヲ有セス、東松浦郡濱

崎ニ日本海ノ灣入スル海岸アレトモ亦タ良港ヲ存セス
如此、有明海沿岸ハ大船出入ニ不便ナレハ海運ハ小形ノ和船ヲ出入セ
シムルニ過キササルナリ

第貳章 地質

圖幅ノ地ヲ構成スル地質ヲ水成岩及噴出岩ニ大別シ、更ニ之ヲ類別ス
ル左ノ如シ

水成岩

Sedimentary Rocks

輝岩及角閃片岩層(御荷鉢層?) Pyroxenite & Amphibolite (Mikabu Series?)

秩父古生層(上中部) Chichibu System (Upper & Middle)

第三紀層 Tertiary

第四紀層 Quaternary

洪積層 Diluvium

沖積層 Alluvium

噴出岩 Eruptive Rocks

花崗岩

Granite

閃綠岩

Diorite

蛇紋岩

Serpentine

石英粗面岩

Liparite

英輝安山岩

Quartz Augite Andesite

雲母安山岩

Mica Andesite

輝石安山岩及其集塊岩

Pyroxene Andesite and its Agglomerate

角閃安山岩

Hornblend Andesite

玄武岩

Basalt

火山灰及灰石(泥熔岩)

Volcanic Ash and Mud Lava.

以上岩類ノ水成岩ニ於テ輝岩及角閃片岩層ハ地方ニ依リ其發達岩種
ヲ異ニシ、北部朝倉郡ニ在テハ特ニ一種ノ變形質雲母片岩ヲ發達シ、其
質結晶片岩ニ甚タ似タリト雖モ、其變質タル花崗岩噴出作用ニ因シタ
ルモノトシ重層ハ古生紀下部ナル御荷鉢層ニ相當スルモノト見做セ

リ、秩父古生層上中部トスルモノニ化石ヲ含有スル著シキ重層ヲ認メ
ス、故ニ細別ヲ附スル能ハス噴出岩ニ於テハ殊ニ火山岩相互ノ關係錯
雜シ學理的甄別シ得ヘカラサルモノアレハ茲ニ其大要ヲ示スニ過キ
ス、火山灰及灰石ノ種ニ於テ灰石トシテ掲クルモノハ新期噴出ニ係ハ
ル泥熔岩ニシテ俗ニ灰石ト名稱スル中ニ含蓄セラル、ヲ以テ假ニ灰
石ト命名セリ

岩石配布及關係

圖幅ニ於テ配布ノ最モ廣キ岩種ハ火山岩、花崗岩及沖積層ニシテ、火山
岩ハ東部ノ國界山脉ニ又杵島郡ヨリ南方藤津郡ニ即チ島原半島ニ於
テ共ニ高峻ナル山岳隆起ヲ爲セリ、花崗岩ハ筑紫山脉ノ山骨ヲ爲シ福
岡圖幅ヨリ本圖幅ノ北部ニ彎曲ス、沖積層ハ圖幅東西區域ノ間ヲ串流
スル筑後川ノ兩邊ニ廣漠タル面積ヲ占有スル沃野ヲ爲セリ
輝岩及角閃片岩層ハ筑紫山脉ノ烏帽子山ヨリ雷山ニ連ナル山軸、朝倉
郡ノ馬見嶽ヨリ西南ニ向ヒ、及八女、山門ノ郡界ヲ爲ス清水山、蔦形山近

傍ニ發達ス、諸岩層ハ一種ノ變形岩重層ト認定セリ
秩父古生層上中部ノ板岩層ハ浮羽郡耳納山ヨリ國界火山脈ニ接シ肥
後ノ山鹿近傍ニ連ナル
第三紀層ハ圖幅西部ナル杵島郡地方ト有明海ヲ隔テタル三池郡地方
第三紀層ト略、向斜層ヲ爲シ海底ニ連續スルノ狀ヲ呈ス、同層ノ陸地配
布區域甚タ狹隘ナリト雖モ、炭層ヲ挿間スルヲ以テ殊ニ著シトス
火山灰及灰石分布ハ圖幅東部ノ低地ニ著シトス、圖幅南方ナル火山ニ
接近スルニ從ヒ、其厚サ及配布區域ヲ増加セシムルノ證據アリ
洪積層ハ久留米附近ノ廣漠タル岡阜ヲ爲セリ

水成岩類

古生層

圖幅ニ於テ古生層ノ發達良好ナラス加フルニ重層特有ノ岩種及化石
ヲ産スルナキヲ以テ古生層ノ研究タル極メテ難シトスルトコロナリ、
假ニ之ヲ二部ニ區分ス下部ナルモノヲ御荷鉢層ナル秩父古生層下部、

即チ輝岩及角閃片岩重層、上部ナルモノヲ秩父古生層上中部トシ細別ノ區分ヲ爲ス能ハス

輝岩及角閃片岩層(御荷鉢層?)

本重層ハ圖幅西北部ニ福岡圖幅ヨリ楔狀ヲ爲シ、烏帽子山ヨリ西南ニ雷山ニ延出スルモノト、東北部ニ同圖幅ヨリ古社山ヲ經テ甘木、穗坂間ニ延出スルモノト、及圖幅中央南部ニ八女郡齋形山近傍ヨリ三池炭田ノ北部ニ亘ルモノトハ稍廣キ面積ヲ占ムルト雖モ、其他ノ三養基、佐賀ノ兩郡及東松浦郡巖木近傍ニ散在セルモノハ小區域ノ露頭ニ過キス。輝岩及角閃片岩層ノ烏帽子山ヨリ雷山ニ亘リ露頭スル重層ハ花崗岩ニ貫スカレ爲ニ接觸變性スル甚タシク、飯場村近傍ニ於テ結晶石灰岩層ヲ挿間シ、又處ニ依リ石英片岩及黑雲母片岩層ヲ雜ユルアリ、輝岩ハ放射狀角閃石ヲ雜エ、僅ニ小粒ノ輝石ヲ遺存スルニ過キサレハ、正式ノ輝岩層トハ認ムルヲ得ス、角閃片岩ハ纖維狀ノ角閃石、石英、少量ノ長石、綠簾石等ヨリ成リ、磁鐵礦ヲ散點ス

古社山ヨリ甘木、穗坂間ニ重層スル輝岩及角閃片岩層ハ、サダ川、黒川間ニ於テ雲母片岩層ヲ厚ク發達シ、古社山ニ於テ結晶石灰岩層ヲ挿間シ層向東北ヨリ西南ニ向フ、本重層ハ地質圖ニ示ス如ク重層ハ其兩邊ニ迸出シタル花崗岩ノ爲メ甚タシキ接觸變性ヲ受ケタルモノ、如シ、本層ヨリ西南ニ花立山ヲ經テ肥前ノ花崗岩體ノ南邊ニ沿ヒ點々東松浦郡ニ連ナルハ角閃片岩ニ硅岩ヲ介在セルモノニシテ同重層ニ屬スルモノナリ、然レトモ岩層ハ花崗岩迸出ノ爲メ甚シク變性シ、正式ノ輝岩層ト認メ得ヘキトコロ少ナシ

中央南部ニ齋形山ヨリ三池炭田北部ニ連ナル輝岩及角閃片岩層ハ八女郡耳納山及鹿本郡ノ山地ヲ成ス古生元ノ粘板岩重層ニ漸移シ、勿論境界ヲ畫スヘカラスト雖モ、齋形山ヨリ三池ニ連ナルモノハ主ニ角閃片岩及硅岩層ニシテ、三池郡眞弓及渡瀬近傍ニ於テハ花崗岩ノ細脈ヲ挿入シ、本邦東北地方ナル阿武隈山系ニ重層スル上部ノ角閃片岩層ト稍其觀ヲ同フスルヲ以テ帽狀鑛ヲ含有スル少ナシ之ヲ同シク古生層下部ト見做シ

區分シタル以所ナリ

秩父古生層^{上中}

圖幅ニ重層スル粘板岩、輝綠凝灰岩及珩岩ノ板岩累層ハ特有ノ化石ヲ含有セサルヲ以テ秩父古生層上中部ノ孰レニ屬スルモノナルヤ明ラカナラサレトモ其石灰岩ノ厚層ヲ有セサルト重層ノ輝岩及角閃片岩等ヨリ漸移スル狀アル如キハ寧ロ中部ノ古生層ニ屬スルノ觀アリ、然レトモ中部古生層ニ殊ニ特有ナル珩岩層ノ厚ク重層セサルハ沈積成層シタル當時ノ地形ノ然ラシムル以所ニ起因スルヤ將來ノ研究ヲ待テ明ラカトテラン、粘板岩ハ凝灰質ヲ帶ヒ黝綠色ナルモノ多シ、輝綠凝灰岩ノ八女郡横山銅山ニ露ハル、モノ、薄片ヲ顯微鏡下ニ査察セハ角閃石ノ一種ナル藍閃石ニ變質シタルモノヲ雜ユルアリトス
板岩重層ハ東ニ國境ヲ爲ス火山岩脈貫通セラレ、八女郡浦、日向等ニ火山岩中ニ圍繞セラル、モノアリト雖モ其接觸變性シタルモノ少ナシ
本古生層中ニ應用物料ヲ介在スル少ナク、僅ニ八女郡横山近傍ノ二三

ノ銅鑛床ニ過キス

第三紀層

圖幅應用物料ニ於テ產額ノ最モ多キハ石炭ニシテ、炭層ヲ介在セルハ第三紀層トス、東松浦郡ヨリ杵島郡ニ亘リ重層スル第三紀層ハ北ニ古岩ニ接シ、中央ニ八幡嶽、瀬戸木場山、女嶽、鬼ヶ鼻山、御船山、鳥泊山等ノ火山岩ニ貫通セラレ、南ニ藤津郡ノ火山岩體ノ噴出ニ接シ、東南ニ有明海ニ向ヒ漸斜シ、遙ニ三池炭田ニ連ナルモノ、如シ、其他ニハ八女郡黒木近傍ニ重層スル第三紀層ニ過キス
有明海ノ東部ト西部トニ重層スル第三紀層ハ稍、岩質ヲ異ニスル點アリ、杵島、小城及東松浦郡ニ重層スル砂岩及頁岩累層ノ砂岩ハ淡黃褐色ヲ帶ヒタル細粒砂岩ニシテ一種荒低材トシテ供用シ得ヘキモノアリ、之ヲ低石ト稱ス、而シテ頁岩ハ粘土質ニ炭質物ヲ雜エ曝露セハ自然酸化作用ヲ爲シ頁岩ヲ變色セシムルアリ之ヲ焦土ト稱ス、第三紀層ハ低石及焦土ノ累層ニシテ砂岩ハ往々砂礫ヲ雜ユルトコロアリ、又杵島郡

川古村ニ於テハ薄キ泥灰質化石層ヲ挿間ス、三池炭田地方ニ於ケル第三紀層ハ疊岩、砂岩及頁岩重層ニシテ、其砂岩ハ下部ニ青白色ヲ帯ヒタル厚砂岩トナリ上部ニ凝灰質頁岩ト累層ス

圖幅ニ重層スル第三紀層ハ化石ニ富有ナラス、杵島郡川古村ニ筭介(*Trochritella* sp.)、三池炭山ニ海月貝(*Cardium* sp.)、海扇(*Pecten* sp.)、テリリーナ貝(*Tellina* sp.)、等ヲ産シ又挾炭層ノ頁岩中ニ山毛櫸ノ類(*Fagus* sp.)、*シデ*ノ類(*Carpinus* sp.)、椴ノ類(*Zelkova* sp.)、*タキツゲ*ノ類(*Taxodium* sp.)、等ノ植物化石ヲ産ス

如此第三紀層ハ特有化石ヲ産セサルヲ以テ其年代ヲ確ムルヲ得スト雖モ、九州挾炭層ノ景狀ヨリ察スルニ或ハ中新期ニ屬スルノ觀アリ

第三紀層中ニ包有スル應用物料ハ石炭ニシテ是等炭山ニ關シテハ應用地質ニ於テ陳述セントス

本圖幅ニ於テハ第三系ヨリ火山岩ノ噴出激甚ナリシヲ以テ、小城、杵島、東松浦及藤津郡等ニ重積スル第三紀層ハ火山岩脈ノ貫通奔出シタル爲メ地層甚タ錯雜セリ

第四紀層

之ヲ分ツテ洪積及沖積ノ二層トス

洪積層

古岩崩壞漂積シテ重層シタルモノ多シ、故ニ圖幅ニ在テハ地骨ヲ構成スル岩種ニ從ヒ其砂礫ヲ異ニスルアリ、神崎、三養基、三井、筑紫及朝倉郡ニ重積スル洪積層ハ花崗岩ノ分解漂積シタルモノ多ク、下部ハ花崗岩質砂利及砂層ニシテ上部ニ粘土層ヲ戴ク、然レトモ其厚サ及分布ノ如キハ地形ニ依リ異ナルアリ、粘土ハ銚土或ハ一種ノ粗惡ナル陶土トシテ供用セラル、モノナリ

三池炭山ノ三池村ニ重積スル洪積層ハ砂、粘土、砂利等ヨリ成ル

三潞郡及八女郡臺地ノ耳納山古生層ニ接近シタルモノハ古生層ノ砂礫、粘土及火山質浮石ヲ以テ成ル洪積層ナリ

圖幅ノ東部殊ニ東南部へ阿蘇嶽ニ接近シタル低地ニ灰石層ヲ厚ク堆積スルモノアリ、其堆積ハ極メテ近代ニ屬スルモノナリト雖モ、所ニ隨

ヒ例へハ浮羽郡大野原ニ於テ洪積層ト甄別シ得ヘカラサルモノアリ、故ニ之ヲ火山灰及灰石トシテ地質圖ニ於テ區分シタリ

沖積層

現世ノ河床或ハ低地ニ漂流堆積シツ、アル泥土砂礫層ニシテ佐賀、柳川及筑後川ノ平地ハ廣漠タル田野ヲ爲ス、佐賀平地ハ北ニ崩壊シ易キ粗粒狀ノ花崗岩山地ヲ負ヒ、柳川、大牟田附近ノ河流ハ柔軟ナル灰石或ハ粗粒崩壊シ易キ地磐ヲ流過シ泥砂ヲ流出スル甚タシク、爲ニ有明海沿岸ハ海底埋マリ概シテ遠淺ナリ、佐賀平原ノ如キ花崗岩ヨリ産出シタル泥砂漂積シテ地味豊饒ナル田野ヲ成セリ、河床或ハ沿岸ニ泥土ヲ堆積スル甚タシク筑後川筋ニテハ泥土ヲ採リ「セメント」材料ニ供スルモノアリ

有明海沿岸ハ土地上昂スト稱スレトモ其實流送漂積シタル泥砂ノ多量ナルヲ以テ沿岸歳ヲ加ヘ益遠淺ナラシムル所以ナリ

灰石層

岡幅ノ東部、國界山脉ニ接近シ存在セル低地ニ灰石ヲ堆積シ、其東北部ノ地ニ堆積スルハ砂利ヲ加エ、洪積層ト甄別シ得ヘカラサルモノアリ、南ニ三池、山麓附近ニ在テハ灰石層ノ厚サヲ加エ、三池炭田ノ襟野ニ於テ熔岩ヲ敷キ、山麓附近ニテハ浮石及黒曜石片ヲ灰石層中ニ雜ユ、灰石層ハ北部ニ在テ細末ナル火山灰ノ堆積物ニシテ南ニ阿蘇嶽ニ接近スルニ從ヒ厚サヲ加エ且ツ粗片ノ噴出物ヲ雜ユルノ狀ハ其由來阿蘇嶽ヨリセシヲ憶測セシム

噴出岩類

花崗岩

(Granite)

花崗岩ハ古生層ヲ貫ヌキ迸出シ、肥前北部山地ナル筑紫山脉ノ骨髓ヲ爲シ、朝倉郡東部ニ迸出シタルモノ浮羽郡耳納山麓ニ連ナリ、其他三池、玉名及菊地郡ニ個々ノ山塊ヲ爲シ迸出シタリ、本岡幅ニ於テハ花崗岩及重層トノ關係ヲ充分ニ目撃シ得ヘカラサレハ從テ花崗岩迸出ノ時期ヲ定ムルヲ得ス

筑紫山脉ノ山骨ヲ爲ス花崗岩ハ、日本本島東北部阿武隈山系地方ニ現出スル片麻花崗岩ノ如キ組織ヲ呈セスシテ、寧ロ中國地方ニ現出スル新期ニ屬スル粗晶質ノ雲母花崗岩ニ類似ス

花崗岩ハ岩理粗粒ニシテ角閃花崗岩ノ一成相ヲ呈スル所アリト雖モ、概シテ閃雲花崗岩或ハ雲母花崗岩ニ屬シ、其主成礦物ハ角閃石、黑雲母、正長石、斜長石及石英ヨリ成リ、副成物トシテ磁鐵、輝鐵、磷灰石、楯狀鑛、風信子鑛等ヲ雜ユ、正長石ニ白色及肉色ノ二種アリ、肉色長石ヲ含有スルハ岩理ヲ粗粒ナラシムル傾キアリ

花崗岩體ニ花崗斑岩及文理花崗岩ノ岩脈ヲ通スルモノ筑紫山脉ノ背振山、三反田近傍ノ山岳ニアリ

如此、花崗岩ノ粗粒ナルモノ多ケレハ從テ其崩壞作用著シキモノ多シ、花崗岩地ニ泥砂ヲ夥シク産シ又禿山多キハ此理ニ起因ス

花崗岩中ニ副成物トシテ雜ユル磁鐵鑛ヲ増加シ、斯ニ依リ局所ニ之ヲ集合セシムルアリ、古湯近傍ニ産出スル磁鐵鑛ノ如キハ其例ナリトス

花崗岩ハ其进出ノ際、秩父古生層下部ノ岩層ヲ變質セシメタルヲ甚シク結晶石灰岩及角閃片岩ノ如キ其作用ヲ受ケ、變性シタルモノナラン

花崗岩ハ粗晶ニシテ崩壞シ易シト雖モ、雨水作用激甚ナル爲メ良好ナル粘土ヲ堆積スルノ地少ナク、僅ニ松尾、都渡城、白壁ノ產地ニ過キス

閃綠岩

(Diorite)

閃綠岩ハ小城郡愛宕山及彦嶽神崎郡三ツ瀬村等ニ露出シ岩理其周邊ノ花崗岩ニ漸移スルハ花崗岩ノ石英及正長石減シ局部閃綠岩ニ移過シタルモノナリ故ニ花崗岩ノ一成相ト見做スヘキモノトス愛宕山及彦嶽近傍ニ於テハ輝石ヲ雜有スル閃綠岩アリテ斑綫閃綠岩ニ局部變シタルモノアリ

蛇紋岩

(Serpentine)

小城郡彦嶽及愛宕山ノ山點ヲ爲シ小區域ニ露出セル蛇紋岩アリ、同岩ハ閃綠岩ヲ貫ヌキ此所ニ現出シタルモノニシテ、蛇紋岩ノ薄片ヲ査察セハ尙ホ橄欖石ヲ存在スルヲ認ム、故ニ橄欖岩ノ一種變體シテ蛇紋岩

化シタルモノナラン、蛇紋岩ハ要スルニ基性物富有ニシテ吸磁力ヲ有スルモノアリ、殊ニ彦嶽産ノモノニ甚タシキヲ認ム

石英粗面岩 (Iriparite)

石英粗面岩ハ杵島郡武雄町ノ西ニ於テ第三紀層ヲ貫スキ小露出ヲ爲ス、同岩ハ有田地方ノ山阜ヨリ玆ニ連ナルモノ、如シ

英輝安山岩 (Quartz Angite Andesite)

藤津郡吉田皿山ニ輝石安山岩中ニ一條ノ英輝安山岩脈ヲ介在ス、岩石ハ鑛泉作用ヲ受ケタル如ク長石及輝石ノ如キ分解シテ白色ノ高陵土トナリ僅ニ其遺骸ヲ認メ得ヘキニ過キス、副成鑛物ノ如キ分解シテ其跡ヲ留メス、皿山ニ於テ之ヲ探掘水飛シテ陶土原料ニ供ス

輝石安山岩 (Angite Andesite)

輝石安山岩ハ圖幅ノ東部ニ彦山ヨリ南ニ阿蘇嶽ニ連ナル國界山脈ヲ爲シ、又藤津郡多良岳山彙ヨリ圖幅ノ藤津郡ニ連ナリ尙北ニ杵島及小城郡ニ於テ個々ノ山塊ヲ爲シ迸出シタリ

東部山脈ニ於テ彦山々彙ニ柱狀ヲ呈スル安山岩アリ、又其近傍及藤津郡御嶽近傍ニ集塊岩ヲ雜ユルトコロアリト雖モ境界ヲ附シ得ヘカラサレハ地質圖ニ於テハ共ニ同色ヲ以テシタリ、要スルニ彦山ハ一ノ火山彙ニ屬スヘキモノナラン、而シテ同山彙ヨリ南ニ阿蘇嶽ニ連ナル火山脈ニ於テ殊ニ著シキ熊渡山及御前山近傍ノ輝石安山岩ハ數多ノ石

英脈ヲ胚胎スルニ在リ星野金山ノ如キ其一例ナリトス
圖幅ノ如キ東部ニ彦山ヨリ阿蘇嶽ニ連ナル火山脈ヲ横タヘ西南ニ多良岳ヨリ延出スル火山岩ヲ控ユレハ火山岩ノ噴出區域勿論廣ク其種類モ亦多シトス、然レトモ要スルニ輝石安山岩ニ屬スルモノ多シ、之ヲ略述スルニ岩石ハ通常淡灰、淡褐或暗綠色ヲ帶ヒ、玻璃質或ハ微晶質石基中ニ斜長石、輝石或ハ角閃石ヲ散點シ、磁鐵鑛、磷灰石等ヲ隨伴ス、藤津郡鹽田近傍ニ噴出シタル輝石安山岩ハ黝色ノ地ニ黒白色ヲ雜エ、所ニ依リ橄欖石ヲ散點ス
日田郡曾家峠近傍ニ露出スル安山岩ニ褐色ヲ帶ヒ流紋ヲ呈シ宛モ石

英粗面岩ニ類似シタルモノアリ、此種安山岩噴出ハ新代ニ屬スルモノ、如シト雖モ、未タ之ヲ定ムルノ事實少ナシ
小城郡別府近傍ニ噴出シタル安山岩ニ多孔質ニシテ流理ヲ呈スルモノアリ

雲母安山岩 (Mica Andesite)

杵島郡武雄村ノ御船山ヨリ温泉山ニ連ナリ顯出ス、其噴出ハ極メテ近代ニ屬シ第三紀層及輝石安山岩ヲ貫ヌケリ、本岩ハ淡紫色或ハ灰白色ニ雲母ノ黒點ヲ雜ユ輝石安山岩ノ如ク堅實ナラス、薄片ヲ顯微鏡下ニ査察セハ微品質石基中ニ黒雲母及斜長石ヲ散點シ、通常磁鉄礦ヲ隨伴ス、又所ニ依リ石英粒ヲ交雜シ、英雲安山岩ト稱シ得ヘキモノアリ、武雄温泉近傍ヨリ御船山ニ向ヒ著シキ岩脈狀ヲ爲シ露出ス

角閃安山岩 (Hornblende Andesite)

熊本圖幅ニ屬スル多良岳火口ヲ爲ス角閃安山岩ハ輝石安山岩ヲ貫ヌキ現出シ
熊本圖幅参照 其脈西北ニ連ナリ本圖幅藤津郡ニ延出シタルモノニ

過キス

玄武岩 (Basalt)

灰色或ハ暗綠色ヲ帶ヒ岩理緻密ニシテ綠黄色ヲ帶ヒタル礦物ヲ點々スル岩種ニシテ圖幅西部ニ其噴出稍著シク、藤津郡多良、糸岐ノ海岸ニ噴出シ、東西松浦郡ト杵島及小城郡トノ郡界ニ屹立スル八幡嶽、瀬戸木場山塊ヲ爲シ、又東松浦郡領布振^{フシ}山突峙ヲ爲シ顯出シタリ、其他杵島及小城郡ノ安山岩及第三紀層ヲ通スル小岩脈數多アリ、薄片ヲ顯微鏡下ニ査察スルニ微品質石基中ニ斜長石、輝石、橄欖石ヲ散點シ、磁鉄礦ヲ雜ユ、玄武岩ノ岩理ハ緻密ニシテ堅硬ナルモノ多シ、小城郡別府近傍ニ於テ安山岩ヲ貫キ流出シタルモノハ稍多孔質ナリ

灰石(熔岩) (Mud Lava)

豊後日田郡上野村及筑後三池郡標野村ニ重層スル火山灰ノ上ニ流理ヲ呈スル泥熔岩 (Mud Lava) ヲ敷キ又山鹿町以東ノ灰石層中ニ輕石及熔岩ヲ雜ユルモノアリ、蓋シ泥熔岩ハ阿蘇火山彙ノ餘力ヲ受ケ流出シタ

ルモノニシテ其顯出タル極メテ近代ニ屬スヘキモノナラン、地質圖ニ於テハ火山灰及灰石(熔岩)ト區別シ顯ハシ得ヘカラサレハ共ニ同色附號ヲ以テ示ス

第參章 應用地質

本圖幅應用材料中最モ重要ナル位置ヲ占ムルモノハ第三紀層ニ在スル炭層ニシテ南部ニ三池郡三池炭田、西部ニ肥前小城、杵島及西松浦郡炭田ノ一部ヲ包有ス、炭層及炭質各特有ノ性質ヲ有シ需用ノ途及市價ヲ異ニスルアリ、輓近鑛業ノ進歩著シク、明治三十一年末ニ調査シタル當時ト今日トハ其趣キヲ異ニスルヤ必セリト雖モ、左ニ調査シタル當時ノ概況ヲ茲ニ陳述セントス

鑛床

石炭

杵嶋郡炭田



ルモノニシテ其顯出タル極メテ近代ニ屬スヘキモノナラン、地質圖ニ於テハ火山灰及灰石(熔岩)ト區別シ顯ハシ得ヘカラサレハ共ニ同色附號ヲ以テ示ス

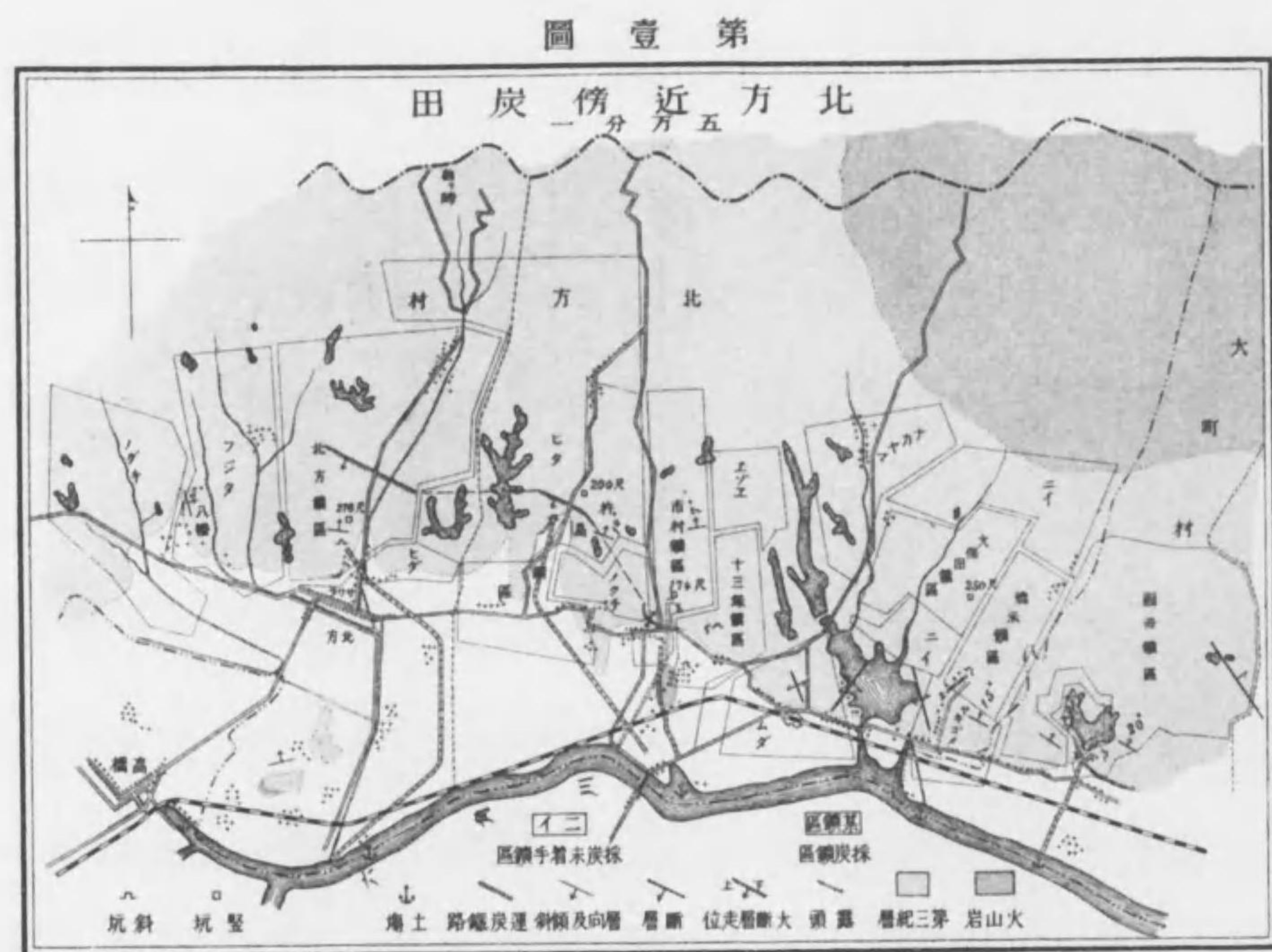
第參章 應用地質

本圖幅應用材料中最モ重要ナル位置ヲ占ムルモノハ第三紀層ニ在スル炭層ニシテ南部ニ三池郡三池炭田、西部ニ肥前小城、杵島及西松浦郡炭田ノ一部ヲ包有ス、炭層及炭質各特有ノ性質ヲ有シ需用ノ途及市價ヲ異ニスルアリ、輒近礦業ノ進歩著シク、明治三十一年末ニ調査シタル當時ト今日トハ其趣キヲ異ニスルヤ必セリト雖モ、左ニ調査シタル當時ノ概況ヲ茲ニ陳述セントス

鑛床

石炭

杵嶋郡炭田



本炭田ハ杵島郡ノ小區域ニ重層スル第三紀ノ挾炭層ニシテ、火山岩ノ之ヲ圍繞シ噴出シタルアリテ重層ヲ錯雜ナラシム、而シテ僅ニ北方、志久地方ノ挾炭層ハ北ニ曲リ峠(海拔百二十米突)ヲ經テ小城郡多久地方ニ連亘ス、杵島郡武雄近傍ノ炭層ハ火山岩脈ノ爲メ殊ニ錯雜シ數所ニ「キラ」炭及煽石ヲ産シ稼行ニ困難ナルモノ多ク、當時就業スル炭山ハ僅ニ大日炭山アルノミ、北方及志久近傍ノ地ニ在テハ數十ノ炭鑛區アリテ餘地ヲ見ス、就中其重要ナルモノハ北方、市村、杵島、十三塚、火保田、燒米及福母炭山ナリトス

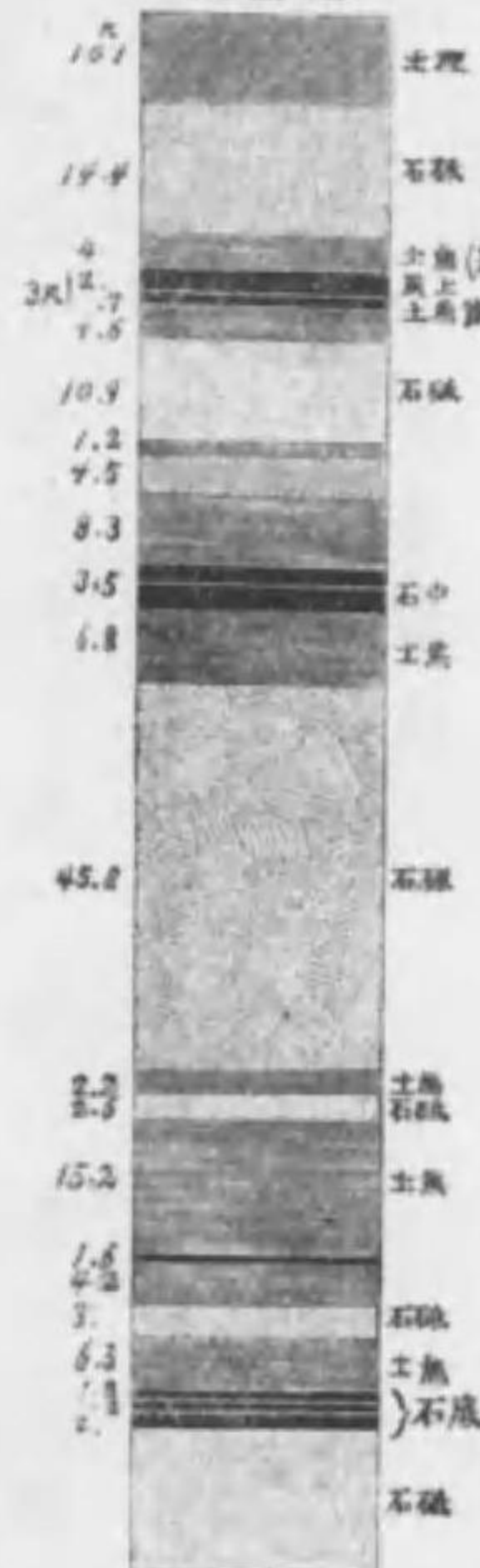
第一圖ニ北方近傍ノ炭田ヲ示ス何坑區ト朱線ヲ以テ畫スルハ營業炭山ニシテ其假名ニテ示スモノハ未着手ノ坑區ニ屬ス

一、北方炭山

長崎鐵道線路ノ北方驛ノ西ニ位スル北方村ニ在リテ鑛區面積約三十萬坪、當時古賀某ノ所有ニ屬ス、採炭長壁式ニシテ日々ノ出炭量平均二十七萬斤、塊粉炭ノ比率三分七分ノ割合ナリ、坑口ヨリ土塲ニ至ル約十五町ノ間運炭鐵路ヲ布設シ、土塲ヨリ住ノ江海岸ニ至ル水路約五里、此地ヨリ帆船ヲ以テ長崎ニ往復ス、其一萬斤ニ對スル運搬費ハ約八圓ナ

リトス
 北方地方ニ發達スル第三紀層ハ砂岩ト名紙石頁岩ト稱スト重層ニシテ、試錐
 結果三枚ノ炭層ヲ挿間ス即チ上石、中石及底石ノ三枚トス、左ニ斷面圖
 ヲ示ス

圖二第
 錐試坑堅方北
 圖面斷



焦土ハ頁岩ニシテ砥石
 ハ細粒ナル荒砥狀ノ砂
 岩ナリ

三枚ノ炭層ニ於テ上石
 ハ炭質佳良ナル燃炭ニ

屬シ、中石之ニ繼キ底石品位劣レリ、中石炭長及炭質上石ニ劣ル點アル
 ヲ以テ採炭ハ上石ニ限リ他ノモノハ未タ着手セス、左ニ上石ヲ撰炭シ
 タルモノ、分析ヲ示ス(分析課)百分中、水分二・八四九、揮發物四五・八五六、
 骸炭四六・二二三、灰分五・〇七二、硫黃三・六八九
 而シテ炭ノ粘結力ハ二・〇〇五ニシテ此區域近傍ニ於ケルモノニ超越ス

ルトコロアリ
 重層ハ西々北ヨリ東々南ニ向ヒ北ニ約九度ノ斜角ヲ爲ス、北方鑛區近
 傍ニ於ケル露頭ハ事務所ノ近傍及八幡社ノ傍ニ在リ
 斜坑及堅坑アリ、斜坑ハ坑口ヨリ斜ニ下リ約五十間ニシテ上石ニ會ス
 茲レヨリ炭層ノ真下ニ約二百間ニシテ東南ヨリ西北ニ向ヒ東北ニ急
 斜スル斷層ニ會シ、其線ノ北部ニ介在スル炭層ハ約四尺下リ同層位ヲ
 以テ北方ニ連ナル、堅坑ハ事務所ノ北ニ位シ深サ二百七十六尺ニシテ
 炭層ニ會ス、巡回シタル當時斜坑道ハ坑口ヨリ約四百五十間ニシテ、フ
 ケ立法ニ達シ、坑道ノ東邊ニハ横坑道二百六十間進ミ、其西邊ニハ約百間
 延ヒ炭層ノ厚サヲ減スル傾キアリ、事務所近傍ニ於ケル露頭ハ炭長僅
 ニ一尺四寸ナリシト雖モ斜坑口ヨリ二十間許ノ距離ニ於テ二尺トナ
 リ漸次進ムニ從ヒ三尺餘ニ達ス、北方鑛區ニ於ケル炭層ハ緩慢ナル向
 斜狀ヲ呈シ其底部ニ炭長ヲ加エ西方ニ石狹ミトナリ厚サヲ減スルノ
 傾キアリ

以上ハ上石ニシテ上石ノ上下磐ハ稍堅固トナル厚サ四尺ノ頁岩層ニシテ尙ホ其上下ニ砥石トナリ其質稍堅固トナル故ニ採炭業ハ炭ノ上下ニ炭層ヲ夾雜スル頁岩ヲ採掘セハ坑内普請ニ多額費用ヲ要セサルモノ、如シ、然レトモ層位山向キニ漸次下リ且ツ天井ニ粒狀質砂岩層ヲ戴クヲ以テ掘進スルニ從ヒ排水ノ困難ハ勢免カレサルモノトス當今ハ鑛區ニ於ケル上石ノ大半ハ既ニ採掘サレタルモノナラン、上石ヨリ尙ホ三十尺下ニ介在スル中石ハ炭質上石ニ劣ルモ試錐ノ結果炭長三尺アリ、故ニ上石ト共ニ眞下方位ニ良質トナル傾キアルヲ以テ將來ニ着手スヘキ望ミアリト雖モ、排水ノ困難ハ愈加フルナラン

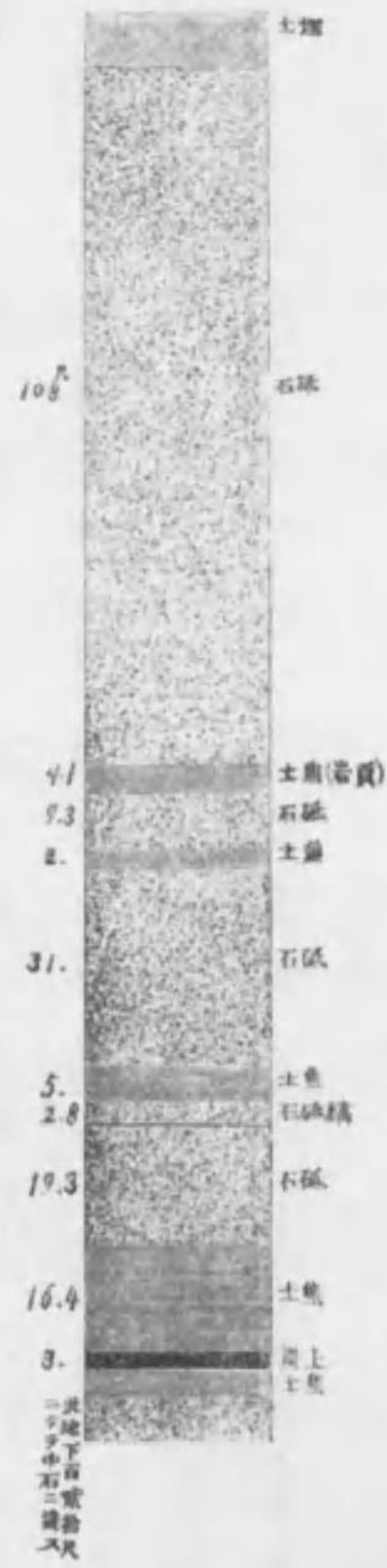
北方其他此近傍ノ石炭ハ少量ノ炭酸石灰及硫化鐵ヲ附着シ上石ノ上下ニ接スル炭ハ粘土ヲ夾雜スルアルヲ以テ長崎市場ニ輸送スルノ炭ハ撰鑛ヲ要スト

二、杵島炭山

北方鑛區ノ東ニ稗田氏所有ノ一鑛區ヲ隔テ國道ヨリ山向ニ亘リ位ス

第三圖

杵島炭山
試錐圖



施行セラレタル試錐断面圖ヲ示スニ
北方炭層ハ
市村炭層ニ

ル杵島炭山アリ、其面積十四萬七千餘坪、二位某ノ所有ニ屬ス、巡回ノ當時稗田氏鑛區八十萬坪ヲ合併シ更ニ起業ニ着手シタリ

炭層ハ北方炭坑ト同シク上石ヲ採掘スルニ在リ、斜坑ハ事務所ノ南ニ位シ坑口ヨリ約十七度ノ傾斜ヲ以テ約千尺ニシテ上石ニ會ス、暨坑ハ事務所ノ北ニ位シ深サ二百尺ニシテ着炭ス、斜坑近傍ニ南三十度東ヨリ北三十度西ニ走り西南ニ急斜スル斷層アリ、其北部炭層ハ約百尺計下ル、該斷層ハ北方ニ於ケル者ト相似タルトコロアリ、而シテ走位ヨリ察スルニ或ハ相連續スルノ思アラシム、採炭法北方ニ同シ、而シテ斜坑口ヨリ當時「フケ」ニ達スル坑道ノ延長約千尺ナリ、左ニ杵島炭坑ニ於テ

向ヒ緩慢ナル向斜狀ヲ呈シ、杵島鑛區ハ其底部ニ位スルヲ以テ炭長稍加ハルノ觀アリ、挾煤層ノ順序北方ノモノニ相似タリ、上石ハ厚サ三尺餘ニ達シ炭質燃炭トシテ佳良ナリ、左ニ分析ヲ示ス(分析課)百分中水分三・三六二、揮發物四〇・八九七、骸炭四八・七六〇、灰六・九七一、硫黃二・八一、

粘結力〇・七五ナルヲ以テ北方炭ニ少シク劣ルノ觀アリ、斷層線以北ノ炭層ハ東々南ヨリ西々北ニ亘リ北ニ約十四度ノ斜角ヲ爲ス

上石ヨリ尙ホ百二十尺下リ中石ニ達ス、茲ニ其厚サ一尺炭質劣等ナリ坑内ハ豎坑直下ヨリ「フケ」ニ達スル坑道ノ兩邊ヲ僅ニ探炭シタルニ過キサレハ將來ニ向テ尙ホ多額ノ炭量ヲ埋藏ス、探炭ハ塊炭七分粉炭三分ト稱ス、故ニ探炭上稍、北方ノモノニ優ル觀アリ、當今坑内出水少ナシト雖モ將來稗田鑛區ノ溜池近傍ノ直下ニ掘進セハ、排水ニ困難ヲ加フルナラン、創業ノ當時日々ノ出炭約二十萬斤ニシテ、斜坑口ヨリ土場ニ通スル運炭鐵路第一圖アリテ此地ヨリ長崎港エノ運搬北方ニ陳ヘタル

モノト大差ナシ

斷層線南部ノ炭層ハ上ルヲ以テ斜坑口ノ南部ニ二箇所及稗田鑛區溜池ノ南部ニ二箇所三尺炭ノ露頭アリ

三、市村炭山

市村炭山ハ杵島鑛區ノ東ニ隣接シテ位ス其面積二十一萬餘坪アリ市村某ノ所有ニ屬ス、本山ハ此四近ニ於ケル舊坑ニシテ開坑明治廿三年ニアリ

本山ニ於テ探炭ニ着手スルモノハ上石ニシテ層向西々南ヨリ東々北ニ向ヒ北ニ七度ノ緩斜ヲナス、北方鑛區ニ於ケルモノト略、向斜層ヲ爲ス、國道ノ傍ニ斜及豎ノ二坑アリ斜坑口ヨリ坑道ヲ進ム約五十七間ニシテ東々南ヨリ西々北ニ亘リ直下スル斷層ニ會ス、炭層ノ上下シタル杵島ノモノニ似タリ、唯タ上下ノ距離茲ニ十二尺豎坑ハ深サ百七十五尺ニシテ上石ニ達ス、其「フケ」ニ於ケル炭長ヲ左圖ニ示ス
豎坑ノ直下ニ於ケル炭ノ厚サ三尺ナルモ「フケ」ニ向ヒ厚サヲ加エ「フケ」

第四圖



ニ於テハ上圖ノ如ク四尺二寸ニ達ス
 斜坑口ヨリ當今ノ「フケ」即チ鑛區境界ニ達スル坑道延長
 約六百間、炭層ハ約七度ノ傾斜ナルヲ以テ堅坑下ヨリ「フ
 ケ」水準ノ差二百八十尺アリ挾煤層ハ北方及杵島ニ同シト雖モ炭ノ上
 下ニ介在スル頁岩ハ所ニ依リ厚サヲ加エ或薄少トナリ、天地ニ砥石肌
 ニ移過スルモノアリ、坑内ハ「フケ」ニ接近シ天井普請ヲ要スル箇所多ク
 柱木ヲ要スル少ナシトセス
 上石ノ炭質ハ杵島炭ニ略相似タリ、左ニ分析ヲ示ス(分析課)百分中
 水分二・八一、揮發物四五・七五九、骸炭四四・六〇四、灰六・八二五
 硫黃五・一六〇
 粘結力一・八〇硫黃分ハ杵島産ノモノニ較フレハ多量ニ含有スルノ傾
 キアリ
 鑛區ニ埋藏セラル、上石ノ大半ハ採掘セラレ當今ニ於ケル採炭事業
 ハ愈最深ノ箇所ニ向ヒ施行セサルヲ得ザレハ當時十八「インチ」唧筒ヲ

据エ付ケ稼行シ排水ニ稍困難ナル景狀ヲ呈ス
 當時ニ於ケル日々ノ出炭額約三十五萬斤ニシテ塊炭六分、二等炭二分、
 粉炭二分ノ比率ナリ
 斜坑口ヨリ土場ニ至ル約二百間運炭鐵路ヲ布設シ、此地ヨリ長崎港ニ
 輸送スル北方炭坑ニ於ケルト同シ

四、十三塚炭山

本山ハ市村炭坑ノ東ニ隣接シテ位シ、鑛區國道ノ傍ヨリ北ニ山向キニ
 亘ル、開坑ハ明治二十四年ニ在リ、當今ニ於ケル鑛區總面積ハ約二十七
 萬坪アリテ福地某ノ所有ニ屬ス
 採炭ニ着手スルハ上石ニシテ層向略東西ニ亘リ北ニ約七度半ノ斜角
 ヲ爲ス、上石炭ノ厚サ茲ニ二尺四寸餘、左ニ断面圖ヲ示ス
 上圖ニ示ス如ク炭ノ上下ニ「カラリ」「ウマコロシ」ト稱スル
 炭質頁岩條ヲ挿間ス
 炭ノ上下磐ヲ爲ス炭質頁岩ハ比較的堅硬ナルヲ以テ出

第五圖



水甚タシカラサルノ地ハ坑内普請ヲ要スル少ナシト雖モ、少シク浸潤
 スルノ地ハ柱木ヲ要ス、而シテ鑛区内ニ於ケル地質ヲ通覽スルニ其西
 部ニ炭ノ上下同頁岩ヲ介在スルモ東部ニ天井直ニ砂岩トナリ之ヲ上
 磐ニ介在セサル景狀アリ、採炭ハ當時斜坑ヨリ約三百六十間延ヒ、尙ホ
 鑛區境界ニ至ル三百五十間着手スヘキ區域ヲ存ス、然レトモ炭層ハ市
 村杵島ニ較フレハ厚サヲ減スレハ深所ニ掘進スルニ從ヒ、稼行ニ愈、困
 難スルナラン、採炭ハ塊炭七分粉炭三分ノ比率ナリ、左ニ塊炭ノ分析ヲ
 示ス(分析課)百分中
 水分二・九六三、揮發物四三・四三〇、骸炭四二・〇六四、灰分一一・五四三、硫黃
 二・四九六
 粘結力〇・三五故ニ炭質杵島、市村及ヒ北方ノモノト少シク劣ルノ觀ア
 リ
 斜坑口ヨリ土塲ニ至ル四百二十間ノ運炭路アリ此地ヨリ長崎ニ輸送
 スル前者ニ同シ

五、燒米炭山

本山ハ北方停車場ノ東ニ福母、火保田ノ二鑛區ノ間ニ在リ鑛區ノ面積
 十二萬二千餘坪アリテ横尾某ノ所有ニ屬ス
 開坑明治廿二年ニアリテ採炭ニ着手スルハ上石ニシテ層向東南ヨリ
 西北ニ亘リ東北ニ約十五度ノ斜角ヲ爲ス左ニ其斷面圖ヲ示ス



第六圖 採炭シ得ヘキハ厚サ三尺ニシテ其上下磐ニ「ウマコ
 ロシ」ヲ介在シ下磐ニ炭ノ薄條ヲ夾入ス
 左ニ塊炭分析ヲ示ス(分析課)百分中

水分三・五〇九、揮發物四七・三七一、骸炭四二・四六六、灰六・七五四、硫黃一・〇
 二一、
 粘結力〇・三五

第一坑ノ坑口ヨリ「フケ」ニ向ヒ約三百八十間延長シ、其間西ニ向ヒ厚サ
 ヲ少シク減ス、然レトモ斜坑道東西兩邊ハ大半採リ盡シタルヲ以テ將
 來ニ「フケ」ヨリ境界線ニ至ル四十間餘ノ間ナリトス、採炭ハ塊炭八分粉

炭二分ノ比率ナリ、日々出炭額二十萬斤ニシテ坑口ヨリ土場ニ至ル運炭線路ノ長サ四百間ナリ

六、火保田炭山

燒米炭山ノ北ニ火保田炭坑區アリ中山某ノ所有ニ屬ス、炭層ハ燒米ノモノ茲ニ連亘スルモノニシテ、鑛區ノ配置ヨリ察スルニ燒米鑛區ト合併シテ起業スヘキモノ、如シ、巡回シタル當時堅坑掘進中ニ屬シ試錐ノ結果深サ二百五十尺ニシテ上石ニ着炭シタリ
火保田鑛區ハ上ニ燒米鑛區ニ接スレハ燒米鑛區境界近傍マテ探掘スルニ當テハ勢ヒ坑内潜水ハ隣區ナル火保田鑛區ニ浸出スルナラン

七、福母炭山

本山ハ燒米鑛區ノ東ナル福母村ニ位シ明治二十七年大串某ノ稼行ニ屬シタリシモ、同年以後稻垣示氏ノ所有トナル、鑛區面積約三十萬坪、日々出炭額三十萬斤、探炭スル炭層ハ上石ニ屬シ、層向西々北ヨリ東々

南ニ亘リ北々東ニ約九度ノ斜角ヲ爲ス、上石炭左ノ層列アリ



底炭稍粘結性アリ
左ニ福母塊炭分析ヲ示ス(分析課)百分中
水分三・四・五・八、揮發物四二・七・八〇、骸炭四六・七・四〇、
灰七・〇・二・二、硫黃二・八・五・八

粘結力一・四〇硫化鐵及炭酸石灰ヲ附着スル少ナシ
探炭、塊炭六分粉炭四分ノ比率ナリ

露頭坑口近傍ニ在リ、是ヨリ坑道ハ東々北ニ向ヒ約百九十間ニ於テ北東ニ曲リ尙ホ二百八十間延長シ東南ヨリ西北ニ向ヒ東北ニ急斜スル一大斷層ニ會ス、該線以東ニ炭層下ル形跡アリ、該坑道ヨリ炭層傾斜ニ沿ヒ三百四十間延長スル斜坑道アリ、該坑道ノ左右ハ已ニ探盡シ當今真下ノ「フケ」近傍ヨリ斷層線ニ向ヒタル部分、即チ西北隅ニ尙ホ着手スヘキ殘炭部アリ、坑内出水多シ、當時十八「インチ」唧筒ヲ使用ス、炭ノ天井ナル頁岩ハ其質稍軟弱墜落スルノ憂アリ、故ニ坑内普請ヲ要スル箇所

東スルニ從テ西南ヨリ東北ニ向フモノ東南ニ屈曲シ東北ニ緩斜ス山阜ノ南ニ安山岩噴出アリテ、其岩脈ノ數條ヲ支出シ此區域炭層ヲ貫ラヌキ爲ニ甚タ錯雜セリ、瓦ヶ炭現出ノ形狀以上山阜ニ散在スル炭層ハ東南ニ武雄ヨリ鹿島ニ通スル街道ノ低地ヲ經テ永島村ノ東部山阜ニ連ナルモノ、如シ

御船山東南麓ニ重層スル第三紀層ハ安山岩噴出ニ依テ切斷セラレ、其南ニ永島村小字古屋敷ニ層向北十度東ニ亘リ北西ニ約五十度ノ急斜ヲ爲ス炭層ヲ露頭ス、厚サ一尺、該炭層ハ小丘ノ前後ニ亘リ介在スレトモ、中央ニ火山岩脈ノ貫通スル扉アリ、即チ山ノ前後ニ存スル舊坑ヨリ二十乃至三十間掘進シタル所ニ於テ扉ニ會ス、炭ノ之ニ接スル近傍ハ厚サ加ハリ燐石ニ變シ、之ヨリ隔タルニ從ヒ無焰炭トナリ、尙ホ隔タリテ褐炭質ヲ帶フ

鳴瀬村炭層ハ烏泊山安山岩ニ沿ヒ南ニ橘村大字片白ニ連ナルモノ、如シ、片白村ニ於テハ炭層消失シテ僅ニ炭質頁岩トナリシデノ類(Camp.)

nus sp.)、山毛櫨ノ類(Fagus sp.)、水松ノ類(Taxodium sp.)等ノ植物化石ヲ産ス

(二)大日、炭山、橘村大字片白ヨリ挾炭層ハ南ニ烏泊山安山岩ノ山麓ニ沿ヒ同村大字大日ニ連ナリ茲ニ二條ノ炭層ヲ現出ス、本炭坑ハ柴田某明治三十年七月頃開坑シ、三十二年頃ハ共同事業トナリ一箇月約九十萬斤ノ出炭ナリシ、採炭ハ荷車ヲ以テ鳴瀬村ニ運搬ス、其間約三十町一萬斤ニ付五圓ヲ費ス

重層ハ北三十度西ニ走リ北東ニ二十五度ノ急斜ヲ爲シ茲ニ二枚ノ炭層ヲ挿間ス、上部ノモノハ厚サ二尺五寸アリテ炭質褐炭ニ屬シ品位多量ノ揮發物及硫黃ヲ含有シ下層ノモノヨリ劣ル、當時上部炭層ノ坑口ヨリ坑道約九間延長シテ炭ニ會シ、之ヨリ層向ニ約二十八間延ヒテ一時探掘ヲ中止ス、下部ノ炭層ハ上層ヨリ直徑約百尺ヲ下リ下層ヲ露頭ス、下層ハ坑口ヨリ斜道五十六間延ヒテ左右ニ坑道ヲ延長ス、下炭ハ厚サ一尺五寸炭質上炭層ノモノヨリ締リ、硫黃含量モ亦タ鮮ナシ、然レトモ探掘スルニ當テハ粉炭比較的多シ、其比率粉炭七分、塊炭三分ノ割合

ナリ、左ニ下炭層ノ分析成績ヲ示ス(分析課)百分中
水分二・八八七、揮發物四一・四四七、骸炭四六・〇四四、灰分九・六二二、
硫黃一・三九七

兩炭層共ニ砂岩及頁岩累層中ニ挿間セラレ下層ハ坑口ヨリ延長稍大
ナリト雖トモ、出水比較的少ナク、且ツ炭層ハ坑口ヨリ西南ノ溪ヲ經テ
山阜ノ下ニ連亘スルノ狀アルヲ以テ將來ニ尙ホ採掘シ得ヘキ餘地ヲ
存ス然レトモ炭ノ厚サ僅ニ尺五寸ニ過キサレハ充分ナル稼行ハ得テ
望ム可カラス

(三)大日炭山ノ南ニ即チ藤津郡久間村ニ屬スル丘阜ヲ構成スル第三紀
層中ニ一條ノ炭層ヲ挿間ス、炭質無燐炭ニシテ、厚サ一尺層向南北ニシ
テ東ニ傾斜ス、舊坑アリ嘗テ採掘シタルモ地形排水ニ困難ナルト炭層
ノ薄條ナルトヲ以テ忽チ中止スルニ至リシ、炭層ノ此地ニ無燐炭トナ
リシハ、蓋シ丘阜ノ西邊ニ噴出シタル安山岩ノ作用ニ起因シタルモノ
ナラン

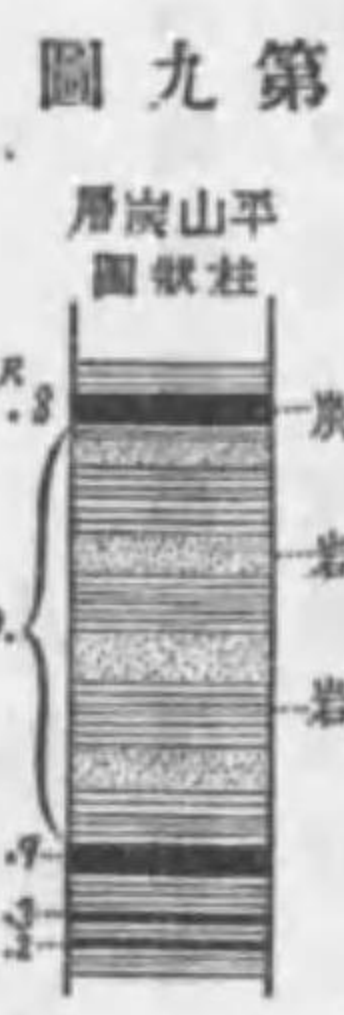
(四)永島村ノ西、武雄町ノ南ニ永野村アリ、其東北部ニ重層スル第三紀層
ハ御船山ヨリ延出スル安山岩ニ貫通セラル、而シテ該岩脈ニ接スル一
支流ニ一枚ノ褐炭ヲ介在ス、層向南々西ヨリ北々東ニ亘リ西方ニ急斜
ス、薄條ニシテ採掘ノ見込ナシ其分析成績左ノ如シ(分析課)百分中
水分二・八九六、揮發物三九・四〇九、骸炭二五・八九五、灰分三一・八〇〇、
硫黃一・〇三九

小城郡炭田

小城郡西部ニ偏在スル炭田ハ同郡多久村及多久原村ヨリ西北ニ番所
峠ヲ經テ東松浦郡ニ連亘スル第三紀層中ニ介在シ、數多ノ小炭坑ヲ散
在セリ、此區域ノ炭山ハ杵島或ハ後章ノ相知炭田ニ較フレハ當時運搬
ニ不便ナル地ニ位スルヲ以テ、唐津鐵道線路ノ長崎線路ニ連絡スルノ
後ニ非サレハ採炭事業ヲ擴張スルニ困難ナリ、當今已ニ小侍近傍ニ鐵
路開通ヲ聞ク、故ニ成功時期近キニアラン

一、宮ノ浦平山炭坑

杵島炭田ノ北方續區附近第三紀重層ハ略北ニ緩斜シテ北ニ曲リ峙ヲ
 經テ小城郡多久村地方ニ連亘ス、然レトモ多久地方ハ炭層ノ真下シ方
 向ニ位スルヲ以テ地下深遠ナル所ニ埋藏スルナラン、多久村ノ北ニ斷
 層アリテ、其以北ノ地ハ昂起シタルモノ、如シ、故ニ多久村大字宮ノ浦
 ニ起伏スル丘阜ニ二條ノ炭層ヲ介在ス、其斷面圖左ノ如シ



下層炭長ケアルヲ以テ之ヲ採掘稼行ス
 炭質次ノ山仁田炭ニ似タリ、炭層ハ低起伏ノ山阜
 ニ露ハレ層向東々南ヨリ西々北シ北方ニ約十二
 度ノ斜角ヲ爲ス、巡回ノ當時倉富某ノ所有ニ屬シ姑息掘ヲ稼行ス、炭層
 ハ低地ニ位スルヲ以テ排水及採掘ニ不便ナリ

二、山仁田炭坑

平山炭坑ノ北ニ起伏スル第三紀層丘阜溪間ニ位シ吉岡某ノ所有ニ屬
 ス、此所ニ一枚ノ炭層ヲ露出ス、層位略水平其厚サ左圖ノ如シ
 採炭シ得ヘキ炭ノ厚サ約一尺二寸、平山炭層位置及層位ヨリ推察スル



ニ平山ノ下部炭層ニ相當スルモノ、如シ、上層ノモノハ山
 阜低キヲ以テ此所ニ露ハレサルモノナラン、撰炭シタルモ
 ノ、分析左ノ如シ(分析課)百分中

水分四・一九七、揮發物四三・五一九、骸炭四〇・三七〇、灰分一一・九一四、
 硫黃六・一七二

硫黃及灰分頗ル多ク硫黃ハ散點スル黃鐵礦ニ含藏セラル、モノナリ、
 此ノ如ク炭質ハ劣等ノ燃炭ニ屬ス、而シテ炭ハ往琥珀ヲ散點ス
 炭ノ露頭ハ丘阜ノ溪間ニ位シ、層位略水平ニシテ坑道ノ補充分ナラサ
 ルヲ以テ採炭ニ不便ナリ、當時姑息掘ヲ施行シ少量ノ出炭ニ過キス

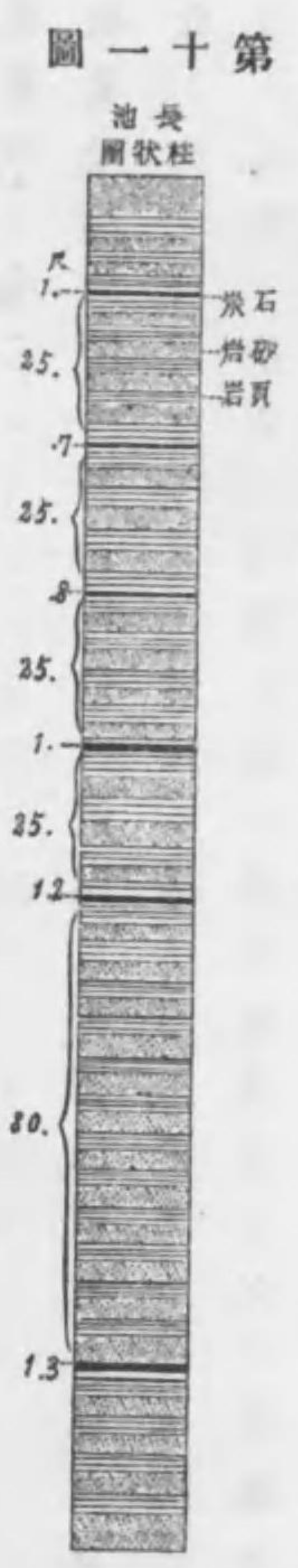
三、「リン」ノ辻舊坑

平山及山仁田炭坑ノ東ニ「リン」ノ辻山麓ニ厚サ四寸及八寸ノ二枚ノ炭
 層ヲ介在ス、傾斜緩慢ニシテ略水平ナリ、炭層ハ山麓ニ埋藏スルニ過キ
 スシテ山向キニ「リン」ノ辻山骨ヲ成ス火山岩ノ爲メニ遮斷セラレ、八寸
 炭ハ此區域ノ下層ニ屬シ、嘗テ姑息掘ヲ施行シ、露頭近傍ハ亂掘セラレ

タリ、天井ノ頁岩良好ナラス、舊坑ハ埋没シテ内ヲ窺フヲ得ス、傳へ聞ク炭質ハ佳良ニシテ粘結性ヲ有シタリト、炭層ハ東南ニ向ヒ其厚サヲ減少スルノ傾キアリ

四、長池炭坑

山仁田炭坑ノ北ニ昂起スル山阜ニ位シ、鹿江某ノ所有ニ屬ス、茲ニ數條ノ炭層ヲ介在ス、其断面左圖ノ如シ



阜ニ亘リ介在シ數條アリト雖モ稍良好ナルハ下層一尺三寸炭ナリトス、炭長ニ著シキモノナキヲ以テ露頭ニ沿ヒ姑息掘ヲ爲シ空舗ニテ採炭シ得ルヲ程度トシ出炭微々タルモノニシテ一日平均一萬斤ニ過キス、左ニ一尺三寸炭ノ分析成績ヲ示ス(分析課)百分中

層向ハ西々北ヨリ東々南ニ向ヒ北方ニ緩斜ス、炭層ハ山

水分三・九〇〇、揮發物三九・七八〇、骸炭四一・二五〇、灰分一五・〇七、硫黃〇・七五

山元ヨリ山崎土場ニ至ル二里ノ間車道アリ、此地ヨリ海岸ニ出ス唐津線全通セサルニ非サレハ運搬便ナラス
炭ハ炭酸石灰或ハ夾ミヲ雜ユルヲ以テ撰炭ヲ要ス、其撰炭シタルモノヲ長崎港ニ出ス

五、鋼谷炭坑

長池炭坑ノ溪谷下流ニ東南ヨリ西北ニ亘リ西方ニ急斜スル斷層線アリ、其東邊ハ地層昂起シ爲ニ下流ニ鋼谷炭層ヲ露頭ス、本炭坑ハ大坪某所有ニ屬シ其断面左圖ノ如シ



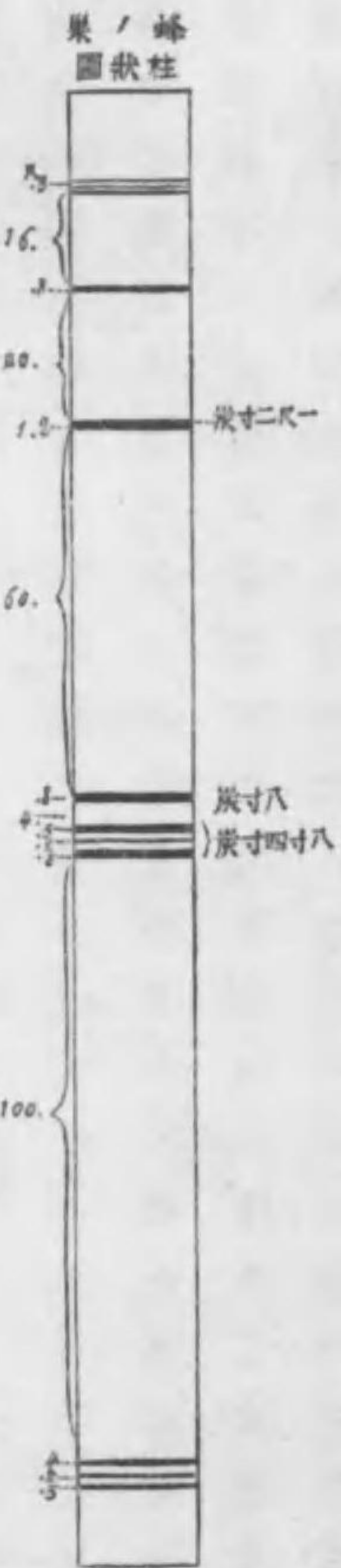
此所ニ探掘スルノ炭ハ厚サ一尺二寸アリテ粘結性ノ褐炭ニ屬シ、少量ノ琥珀及炭酸石灰ヲ散點ス、炭層ハ長池ノ孰レニ相當スルヤ明ラカナラス、然レトモ當時採炭スル長池炭ニ相似タリ、左ニ分析成績ヲ示ス(分析課)百分中

水分三・四二一、揮發物三九・二三一、骸炭三七・〇四四、灰分二〇・三〇四、
 硫黃二・九九一
 地形低地ニ位スルヲ以テ坑内出水多ク炭層ノ天井佳良ナラス、坑木ヲ
 要スルトコロ少ナシトセス、一日出炭量平均一萬斤ナリ

六、蜂ノ巢炭山

瀬戸木場嶽ノ東邊ニ隆起スル山脉ノ山腹ニ位シ、海拔約二百四十米突
 アリ、本山ハ多久礦業合資會社ノ所有ニシテ礦區面積約三十萬坪アリ、
 北多久村大字小侍ノ地ニ屬ス、
 蜂ノ巢炭山ハ明治四年頃着手ス、此區域ハ唐津鐵道線路成功ニ非サレ
 ハ運搬ニ不便ナルヲ以テ未タ盛山スルノ好機ヲ得ス、巡回ノ當時一日
 ノ出炭額四五萬斤ニ過キス、此所ニ介在スル炭層六枚アリ、左ニ斷面圖
 ヲ示スカ如シ、六枚ニ於テ炭質良好ニシテ採炭ニ着手スルハ八寸、一尺
 二寸及八寸四寸炭ノ三枚ナリトス、左ニ八寸四寸炭ノ分析成績ヲ示ス
 (分析課)百分中

第三十圖



水分四・三〇
 一、揮發物四
 二・七四二、骸
 炭四八・七一
 〇、灰分四・二

四七、硫黃二・九四〇
 粘結スト稱スレトモ概シテ粘結セス硫黃、琥珀、炭酸石灰ノ含有概シテ
 少ナシ

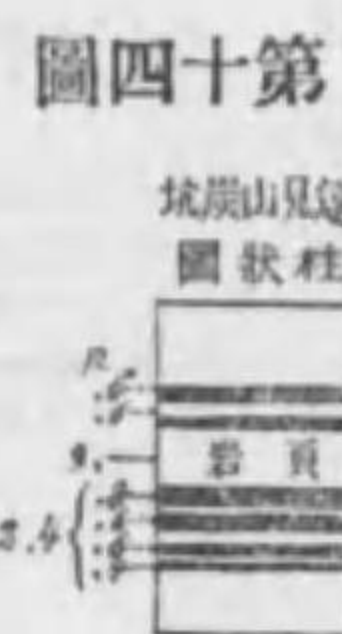
炭層數枚アリテ露頭山腹ニ介在スルヲ以テ下層ト雖トモ、溪間ノ田面
 ヲリ高キコト約百尺ノ地ニ位スレハ坑内出水少ク採炭セラル、モ
 ノ多シ、層向西々南ヨリ東々北ニ亘リ北ニ三度ノ斜角ヲ爲ス、該層位ヨ
 リ炭層介在ノ景狀ヲ察スルニ炭層ハ其一部山ノ北ニ位スル隣區ナル
 油木原礦區ニ連ナルモノナリ
 蜂ノ巢炭山ノ一尺二寸及八寸四寸炭ハ炭質燃炭トシテ稍良好、當時一

尺二寸炭ハ坑口ヨリ下^{オロシ}ニ向ヒ長サ百間餘ノ索斜道ヲ布設シ運炭セシム
 炭層厚サ少ナシト雖トモ、炭質比較的堅實ナルヲ以テ採炭スルニ當テ
 粉炭少ナシ、而シテ炭質炭酸石灰或ハ硫化鐵ヲ附着スル少ナキ漆黑色
 ノ炭ニシテ撰炭ヲ要スル少ナシ、當時一尺二寸炭抗ニ於テ坑内少シク
 出水アルヲ以テ十四「インチ」唧筒ヲ据付ケ排水セシムルト雖モ、將來ニ
 隣區ナル油木原炭坑ト合併スル如キコトアレハ空舗ニ依テ採炭シ得
 ヘキモノトス
 事務所ヨリ山崎土場ニ至ル約一里、一萬斤ノ運賃約十圓ヲ費ス、此地ヨ
 リ他方面ニ唐津線成功ノ上ハ運搬便ナリトス

七、遠見山炭山

小侍村遠見山炭山ハ唐津街道ノ路傍ノ低地ニ位シ、面積約六萬坪、園田
 某所有タリ、一日出炭額平均三萬五千斤、坑口ヨリ斜坑二十八尺ニシテ
 炭層ニ會ス、重層ハ西々南ヨリ東々北ニ向ヒ北ニ緩斜ス、坑口ヨリ「フケ」

ニ向ヒ約九十間延長シ此所坑口ヨリ下ル直徑約百尺計坑内少シク出
 水アリ、當時十二「インチ」唧筒ヲ使用シテ排水セシム、採炭ニ着手スルハ
 左ノ断面圖ニ示ス炭層トス



炭層ノ上下磐石ニシテ柔軟ナルモノアレハ坑内普請
 ヲ要スル箇所少ナシトセス、二枚ノ炭層ニ於テ下層ノモ
 ノヲ良シトス、其厚サ二尺四寸ニ於テ八寸及六寸炭ヲ良

シトス、然レトモ六寸炭ハ琥珀、硫化鐵等ヲ散點シ、其質八寸炭ニ劣ル、左
 ニ八寸炭ノ分析ヲ示ス(分析課)百分中

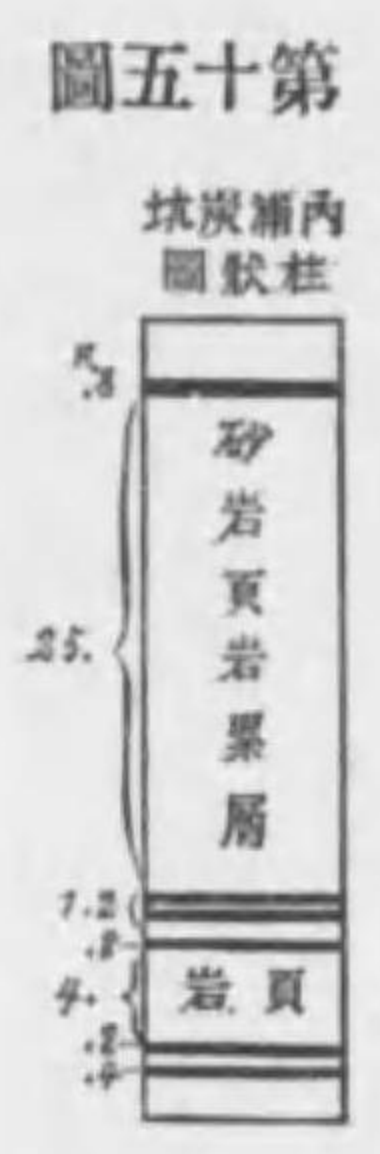
水分四〇・六三、揮發物四〇・六九九、骸炭四五・八三〇、灰分九・四〇八、
 硫黃一・三四二

二尺四寸炭ニ於ケル八寸炭ヲ採掘スルニ當テ、塊八、粉二ノ比率ナルモ
 爾餘ノ薄層ニ在テハ粉炭多シトス
 遠見山二枚ノ炭層ハ蜂ノ巢地方ノ八寸四寸炭及八寸炭ニ相當スルモ
 ノト推察セラル、本鑛區炭層ハ北ニ位スル内浦鑛區ニ接近スル地ニ東

西ニ亘ル斷層ニ會シ、其北部ノ炭層爲ニ少シク凹落ス、本區域ハ唐津線聯絡ノ上ハ運炭上一層ノ便ヲ得ルナラン

八、内浦炭坑

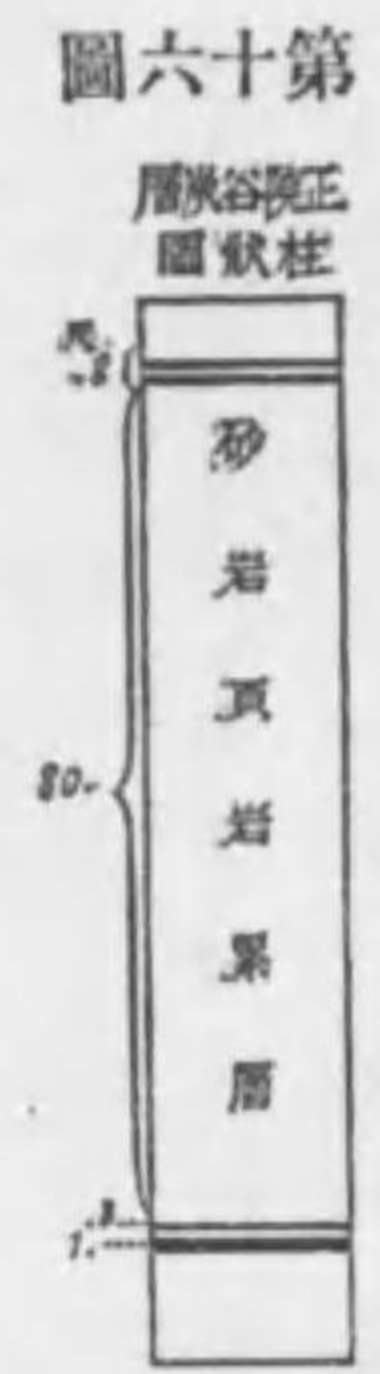
遠見山炭層ハ斷層以北即チ内浦鑛區ニ於テ上層ノモノ一尺二寸及八寸下層ノモノ八寸四寸炭トナリ炭質灰分、揮發物及硫黃分比較的増加シ炭質ヲ劣ラシム、本鑛區ハ村山某ノ所有ニ屬シ當時姑息掘ニ着手スルハ下部二枚炭層ニシテ上部ノモノニ着手セズ、左ニ斷面圖ヲ示ス炭層ハ事務所近傍ニ於テ北ニ緩斜スレトモ、其北部低起伏山阜ニ在テハ略平坦トナル、當時姑息掘ヲ爲ス一尺二寸炭ノ分析成蹟ヲ示ス(分析課)



水分四〇・九〇揮發物三九・四二一、骸炭三九・三七八、灰分一七・一一一、硫黃五・九五—

九、正院谷附近炭坑

小城郡砂原村即チ唐津街道ノ北邊多久原村ニ接近シ字正院谷附近ニ起伏スル低キ山阜ニ二枚ノ炭層ヲ埋藏ス、蓋シ遠見山炭山等ニ於ケルモノニ相當スルナラン、左ニ斷面圖ヲ示ス



炭層々向略南北ニシテ東方ニ約十一度ノ斜角ヲ爲ス、上層炭厚サ約一尺、夾ミヲ交雜スルヲ以テ採炭シ得ヘキモノ七寸トス、上層炭ヨリ下ニ約八十尺ヲ隔テ下層炭アリ、第十六圖ニ示ス如ク採炭シ得ヘキハ八寸及一尺二寸トス、炭層ハ北ニ向ヒ少シク良炭トナリ、南ニ即チ國道ニ向ヒ厚サヲ減シ炭質ヲ劣等ナラシムル傾キアリ、此所ニ姑息稼行ニ従事スル大坪某、熊崎某等ノ小鑛區アリテ、出炭微々タルモノナリ、當時塊炭ハ市場賣品トシ、粉炭ハ「ガラ」炭トシ四近ニ販賣ス、炭質硫黃分及灰分ニ少量ナラス、稍粘結性ヲ帶フ、其分析成蹟左ノ如シ(分析課)

百分中
正院谷水分四・一五三、揮發物四四・二六九、骸炭三七・七〇八、灰分一三・八七〇、北ノ口

硫黄三・六二七

正院谷南ノ口水分四・五一九、揮發物四三・五六三、骸炭四五・一四〇、灰分六・七七八、

硫黄二・〇〇九

此附近炭層ハ尙ホ北方ニ連亘スル形状アリ、然レトモ炭質ハ正院谷ノモノト大差ナカルヘシ

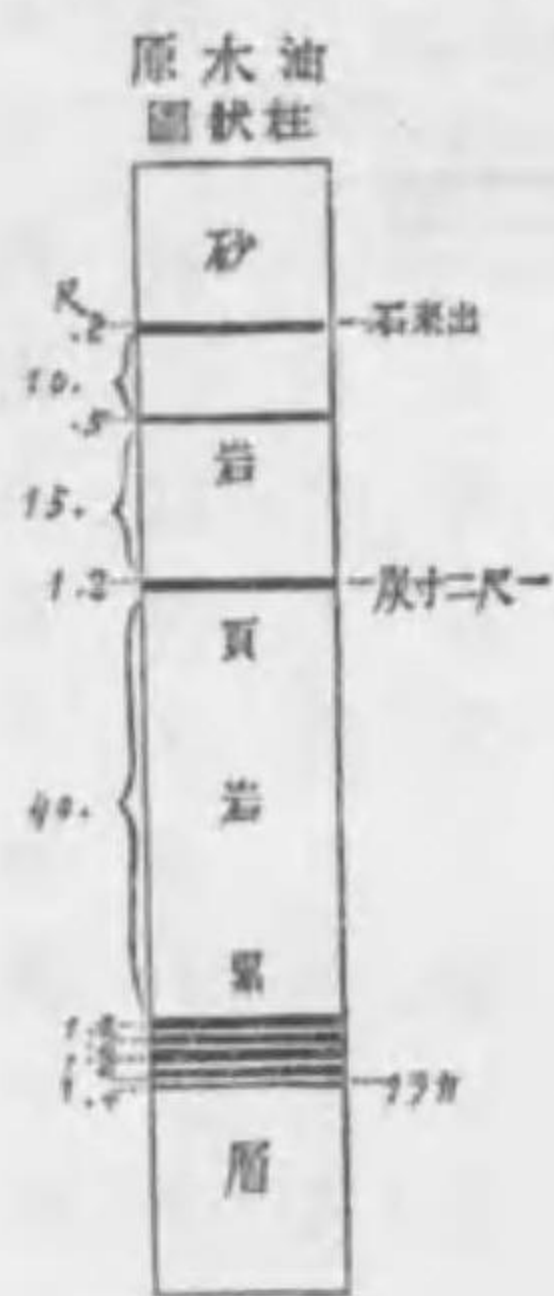
此他内浦鑛區ノ北方山阜ニ炭層ヲ埋藏スルノ状アリ、要スルニ此等炭層ハ鐵道聯絡ノ上ニ非サレハ稼行シ得ヘキモノニ非サルナリ

十、油木原炭山

本山ハ小侍村ノ地内ニ屬シ蜂ノ巢炭山ノ北方ナル裏山ニ位シ、海拔約二百米突アリ、鑛區面積約四十萬坪、横尾某ノ所有タリ、層向南々西ヨリ北々東ニ向ヒ西方ニ緩斜ス、左ニ断面圖ヲ示ス

上圖ノ下層ハ蜂ノ巢炭山ノ八寸炭及八寸四寸炭ニ相當スルモノナラシ、蜂ノ巢地方ニ重層スル砂岩頁岩層ハ其厚サヲ減シ爲ニ下炭層炭ノ如キ反テ探炭ニ良好ナル形状ヲ呈シタリ、下層炭ノ探炭シ得ヘキモノ

第七十圖



、厚サヲ約四尺トス、底石ニ「カラリ」ト稱スル夾ミ多キ四寸炭ヲ介在シ、其質良好ナラス、本炭層ヨリ上ニ四十尺ヲ隔テ一尺二寸炭ヲ介在ス、蜂ノ巢一尺ニ相當ス、炭質佳良夾ミ少ナシ、此ヨリ上ニ十五尺ヲ隔テ五乃

至六寸炭ヲ介在シ良質ナラス、尙ホ此上ニ十尺ヲ隔テ八寸炭アリ、出來石ト稱ス、縞炭ナルモ探炭シ得ヘシ、該炭ハ蜂ノ巢上層炭ニ相當スルモノナラン、左ニ油木原下層炭標品ノ分析成績ヲ示ス(分析課)百分中

水分五・〇九六、揮發物四〇・七〇一、骸炭四九・九三六、灰分四・二六六、

硫黄三・一八〇

炭質蜂ノ巢炭ト甲乙ナシト雖モ硫黄分稍加フルノ觀アリ

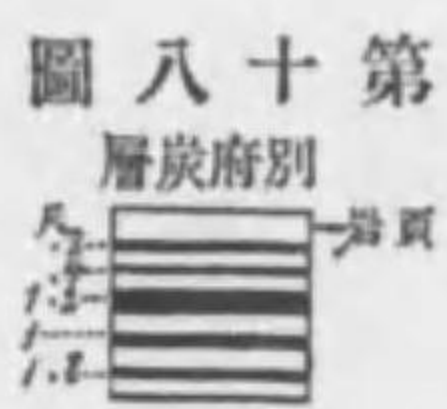
事務所ノ傍ナル斜坑ハ索斜道ニシテ約二百三十間延長シ當今探炭スル「フケ」ハ尙ホ其所ヨリ西方ニ蜿蜒百二十間計延長スト、探炭スルハ炭長蜂ノ巢ニ較フレハ加ハリ探炭及運炭上一倍ノ便アリ、探炭ハ塊炭八

分、粉炭二分ノ比率ナリ、巡回ノ當時一日出炭額十二三萬斤ナリシト雖モ、當今既ニ此地方マテ唐津線ノ運轉ヲ開ク、故ニ出炭額愈増加シタルナラン巡回ノ當時ハ事務所ヨリ鐵道線路ニ通スル運炭線ヲ起工セス坑内多少ノ出水アリ、十四「インチ」唧筒ヲ据付ケ排水セシム

油木原及蜂ノ巢方面ヨリ遠見山附近ニ至ル炭田ハ將來鐵道開通ノ上ハ此區域ニ於ケル炭坑事業ノ最モ望ミヲ屬スヘキトコロナラント推考セラル

十一、別府炭坑

小城郡別府村ノ小區域ニ重層スル第三紀層中ニ炭層ヲ挿間シ、層向東北ヨリ西南ニ亘リ東南ニ緩斜ス、嘗テ二十四五年頃古賀某之ニ着手シ一時出炭ノ盛況ヲ爲シタリ、炭層ハ厚サ五尺八寸探炭シ得ヘキハ約四尺ナリ、然レトモ火山岩脈ノ炭層ヲ貫通スル頻繁ニシテ炭質モ燻石質ニ變シタルモノアリ、且ツ探炭スルニ當テ岩脈ノ爲メ多額ノ經費ヲ要シ稼行上收支相償ハサル點アルヲ以テ、其



第十 別府炭層ノ断面圖

探炭シ易キ部分ヲ探盡シ、事業ヲ廢止スルニ至リシナリ、巡回ノ當時既ニ廢坑ニ屬シ坑内ヲ窺フヲ得ス

東松浦郡相知附近炭田

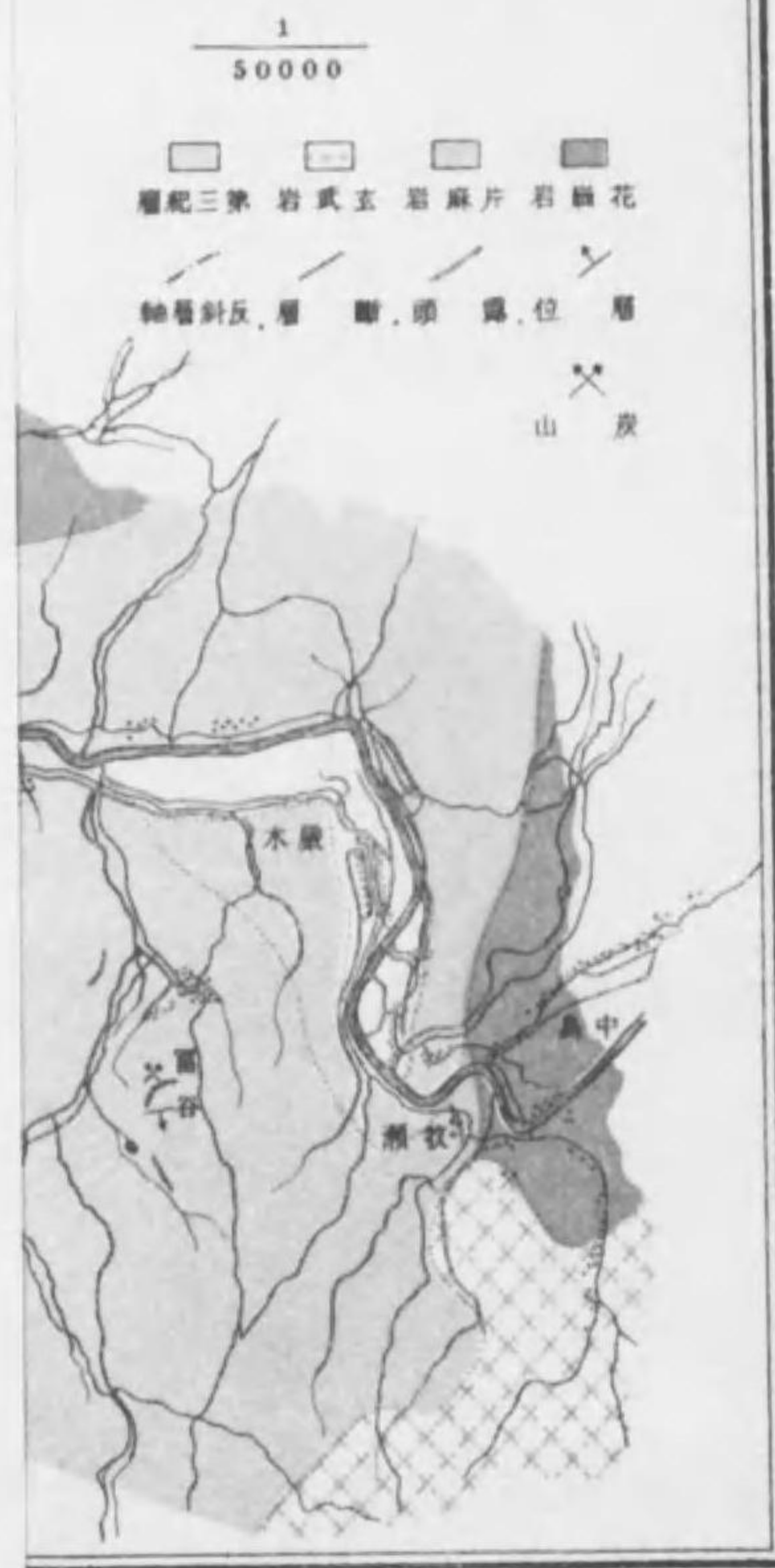
小城炭田ヲ介在スル第三紀層ハ郡界山脉ヲ爲シ、北ニ天嶽地方ヨリ連ナル花崗岩ト南ニ瀬戸木場嶽ヲ成ス火山岩隆起ト山岳トノ間ニ番所峠ヲ經テ東松浦郡ニ連亘シ、尙ホ西方相知附近ニ至リ、數多ノ炭山ヲ蟻集ス

一、峠炭坑

小城郡峠ノ巢及油木原挾炭層ハ向斜狀ヲ爲シ、玆ニ連ナリ、挾炭層ハ花崗岩ノ基岩ニ凭リカ、リ其相接スル近傍ニ斷層アリ、玆ニ露ハル、炭層二枚アリ、其層列蜂ノ巢鑛區ノモノニ似タリ、左ニ断面圖ヲ示ス

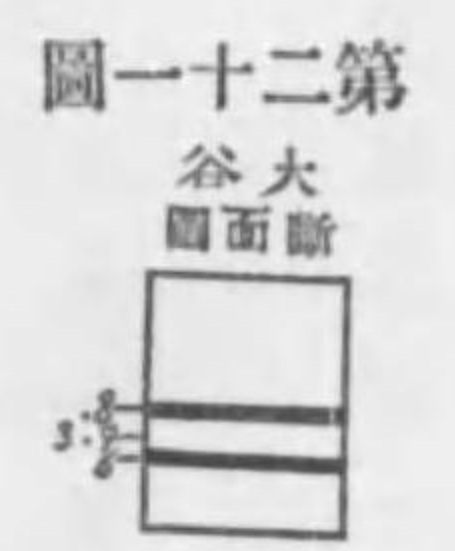
鑛區面積約一萬三千坪アリテ熊崎某ノ所有ニ屬ス、層向西南ヨリ東北ニ向ヒ東南ニ略二十三度ノ急斜ヲ爲ス、探炭ニ適スルハ下層炭ノ八寸及一尺二寸ニシテ炭層斷層ノ爲メ壓搾セラレテ粉炭多シ、炭質蜂ノ巢

相知近傍炭田



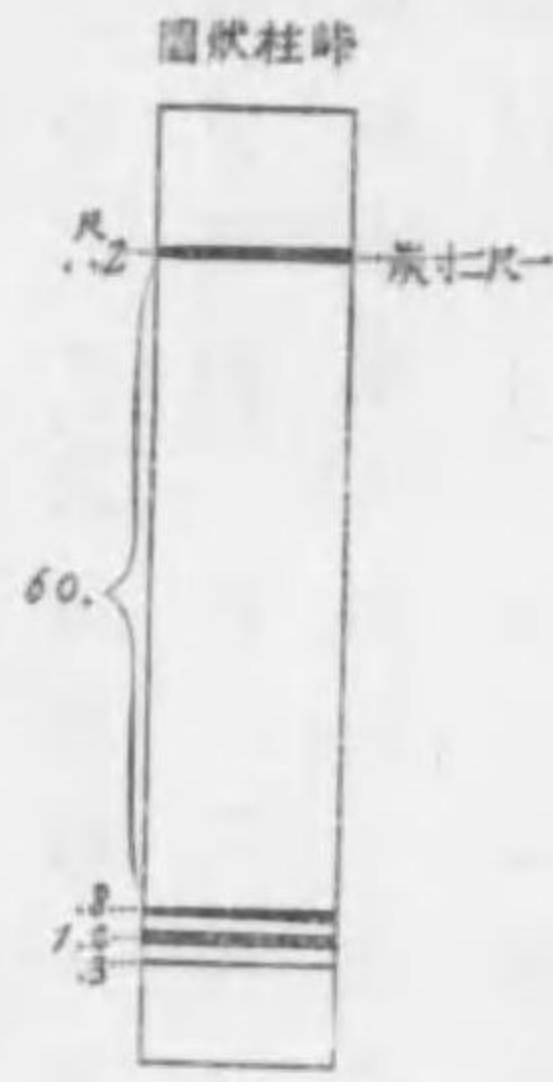
第二十圖

東松浦郡嚴木村大字牧瀬ニ在リ番所峠ヨリ連亘スル第三紀層ハ火山岩ニ貫通セラレ、此所ニ再現シ國道ニ沿ヒ發達スル花崗岩及片麻岩ニ斷層ヲ以テ會シ、挾炭層ハ西方波瀾ニ向ヒ連亘ス、如此錯雜シタル地形ナルヲ以テ重層ハ壓迫セラレ、炭層ハ南々東ヨリ北々東ニ向ヒ西方ニ二十五度ノ急斜ヲ爲ス、鑛區挾小當時藤田某所有ニ屬シ日々出炭額約二萬斤ナリ、茲ニ露頭スルハ所謂三尺炭ニシテ、其採炭シ得ヘキモノ八寸及六寸ノ二條トス、炭層ハ壓迫力ヲ受ケタル爲メ粉炭ヲ介在スル多シ、傾斜急峻ナルヲ以テ炭量ニ富ナラサルト雖トモ、坑内排水ノ難事少ナキヲ以テ姑息稼行ヲ繼續ス、當



第二十二圖
大谷斷面圖
爲メ粉炭ヲ介在スル多シ、傾斜急峻ナルヲ以テ炭量ニ富

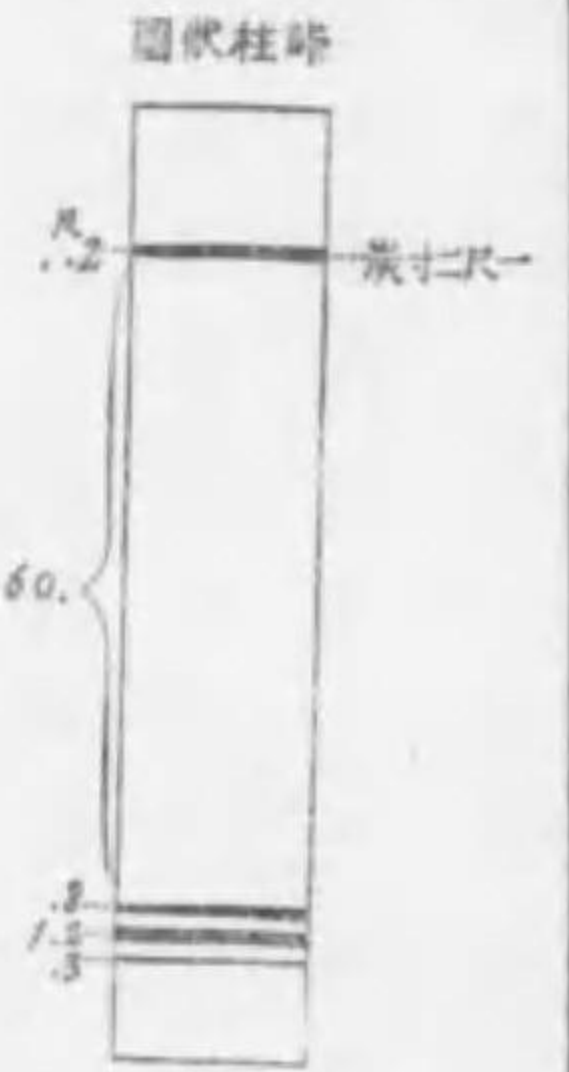
第九十圖



ニ似タリト雖モ、硫化鐵ヲ散點スルノ量多シトス、前章陳述シタル如ク炭層ノ傾斜急峻地形排水ニ困難ナリ當時姑息稼行ニシテ日々出炭額一萬斤内外ナリ

二、大谷炭坑

第九十圖



ニ似タリト雖モ、硫化鐵ヲ散點スルノ量多シトス、前章陳述シタル如ク炭層ノ傾斜急峻地形排水ニ困難ナリ當時姑息稼行ニシテ日々ノ出炭額一萬斤内外ナリ

二、大谷炭坑

東松浦郡嚴木村大字牧瀬ニ在リ番所時ヨリ連亘スル第三紀層ハ火山岩ニ貫通セラレ、此所ニ再現シ國道ニ沿ヒ發達スル花崗岩及片麻岩ニ斷層ヲ以テ會シ、挾炭層ハ西方波瀾ニ向ヒ連亘ス、如此錯雜シタル地形ナルヲ以テ重層ハ壓迫セラレ、炭層ハ南々東ヨリ北々東ニ向ヒ西方ニ二十五度ノ急斜ヲ爲ス、鑛區挾小當時藤田某所有ニ屬シ日々出炭額約二萬斤ナリ、茲ニ露頭スルハ所謂三尺炭ニシテ、其採炭シ得ヘキモノ八寸及六寸ノ二條トス、炭層ハ壓迫力ヲ受ケタル爲メ粉炭ヲ介在スル多シ、傾斜急峻ナルヲ以テ炭量ニ富有ナラサルト雖トモ、坑内排水ノ難事少ナキヲ以テ姑息稼行ヲ繼續ス、當

第二十圖



相知近傍炭田

1/50000

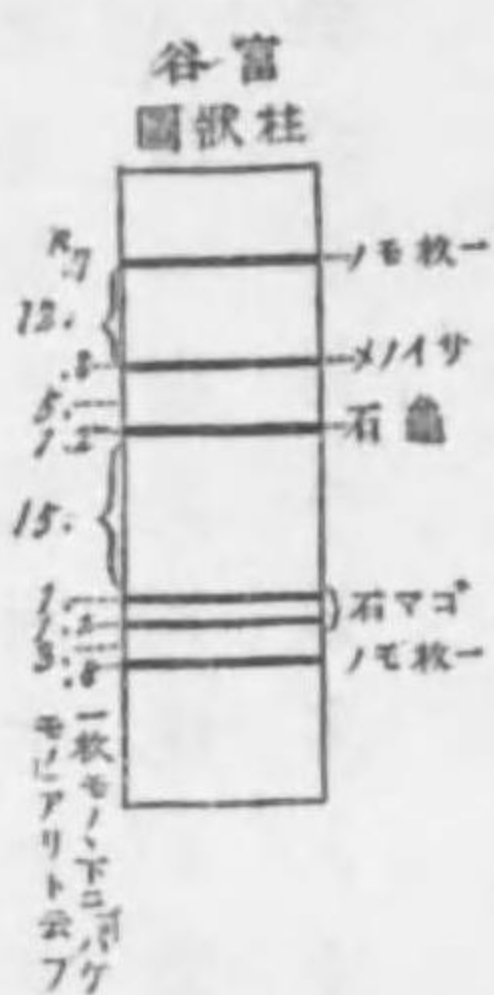
花崗岩 片麻岩 玄武岩 第三紀層
層位、頭、斷、層、斜、急、傾
炭、層、三、尺、炭

今唐津鐵道ニ依リ唐津ニ出ス運炭便ナルヲ得タルナラン、然レトモ將來ニ出炭増額ハ到底望ム可カラサルナラン

三、波瀨富谷炭坑

大谷炭坑ノ北方ニ隆起スル波瀨村大字富谷山阜ニ數條ノ炭層ヲ介在ス、第三紀重層ハ此所ニ厚サヲ減シタルモノ、如シ、炭質佳良ナル數條ノ炭層ハ概シテ薄ク且ツ著シキ層列比準トナルヘキモノヲ認メサリシヲ以テ後章陳述スル波瀨及岩屋ノ孰レニ相當スルヤ確ニスルヲ得ス、左ニ斷面圖ヲ示ス、上ノ一枚モノ炭質燃炭トシテ佳良、厚サ七寸ニ過

第二十二圖

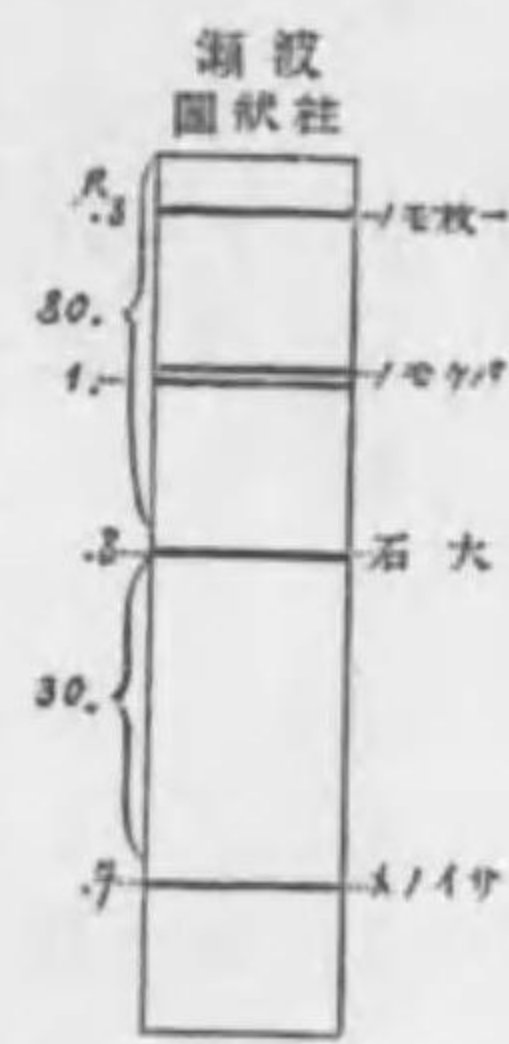


キス、「サイノメ」炭ハ稍小片トナリ産シ龜石炭ハ稍塊炭トナリ産ス、炭質共ニ光澤ヲ有シ硫黃及灰分少ナク、燃炭トシテ頗ル佳良ナルモノト雖モ、厚サ尺餘ニ出ツルモノ少ナシ、「ゴマ」石ニ於テ上石尺一及底石二寸共ニ探炭シ得ヘシト雖トモ、炭質「サイノメ」及龜石炭ニ劣ル、下部一枚モノ厚サ八寸ナルモ、上部ノモノニ稍劣ルノ形狀アリ炭

層ハ山向キ、即チ南ニ緩斜ス、富谷炭坑ノ北ニ里道ヲ隔テ、起伏スル山阜ノ麓ニ一條ノ炭層ヲ露出ス、該炭層ハ三尺炭ニ相當スルモノナラン、如此薄條ノ炭層ナルヲ以テ炭質佳良ナリト雖トモ、姑息ノ小稼行ニ過キス、故ニ出炭額從テ微々タルモノナリ

其他波瀨村ニ數多ノ小稼行鑛區アリ、「一枚モノ」、「バケモノ」或ハ大石炭ト

第三十二圖



稱スルハ厚サ一尺以内ノ炭層ニシテ出炭ニ著シキモノナシ、左ニ波瀨村獅子ヶ城山東南ニ露頭スル柱狀圖ヲ示ス、要スルニ後章陳述スル岩屋炭坑ノ裏山ニ位シ、層列略相似タルヲ以テ、炭層配布ノ形狀ハ岩屋炭ノ形狀ヲ以テ略推察スルヲ得ン、炭質ハ概シテ岩屋産ノモノニ劣ルモノトス

左ニ富谷炭坑ノ「ゴマ」炭ノ分析成績ヲ示ス(分析課)百分中

水分三・〇八、揮發物四一・一七、骸炭三六・二七、灰分一九・四八、硫黃〇・四一
左ニ波瀨炭坑大石炭分析成績ヲ示ス(分析課)百分中

水分三・一一四、揮發物四二・六五八、骸炭一二・八二四、灰分四一・四〇四、

硫黃三・六七八

故ニ波瀨村ニ露頭スル大石炭ハ其質灰分及硫黃分ニ富有ナル劣等炭ニ屬ス

波瀨、平山上ノ間ニ數條ノ薄炭層ヲ露出スルアリ、要スルニ岩屋ノ裏山ニシテ露頭ノ飾リ岩屋方面ノ如ク完備ナラス、故ニ岩屋炭坑ニ於ケルモノヲ以テ其大要ヲ概察スルニ足ラン

四、岩屋炭坑

獅子ヶ城山ヨリ西北ニ連ナル山脉ノ岩屋村ニ面シタル山阜ニ數條ノ炭層ヲ介在シ、茲ニ十六ノ小鑛區アリテ、小稼行堀ニ從事シ一日出炭額平均十萬斤トス、左ニ柱狀圖ヲ示ス

山麓ニ三尺炭ヲ露頭ス三尺炭ハ小鑛炭田ニ於ケル下部八寸炭ニ相當スルモノナラン(蜂ノ巢炭山断面圖參照)、二尺乃至三尺ノ夾ミアリテ探炭シ得ヘキハ約一尺五寸トス、該炭層ノ上ニ八十尺ヲ隔テ厚サ八寸ノ龜石炭アリ炭質燃炭トシテ硫黃及灰分

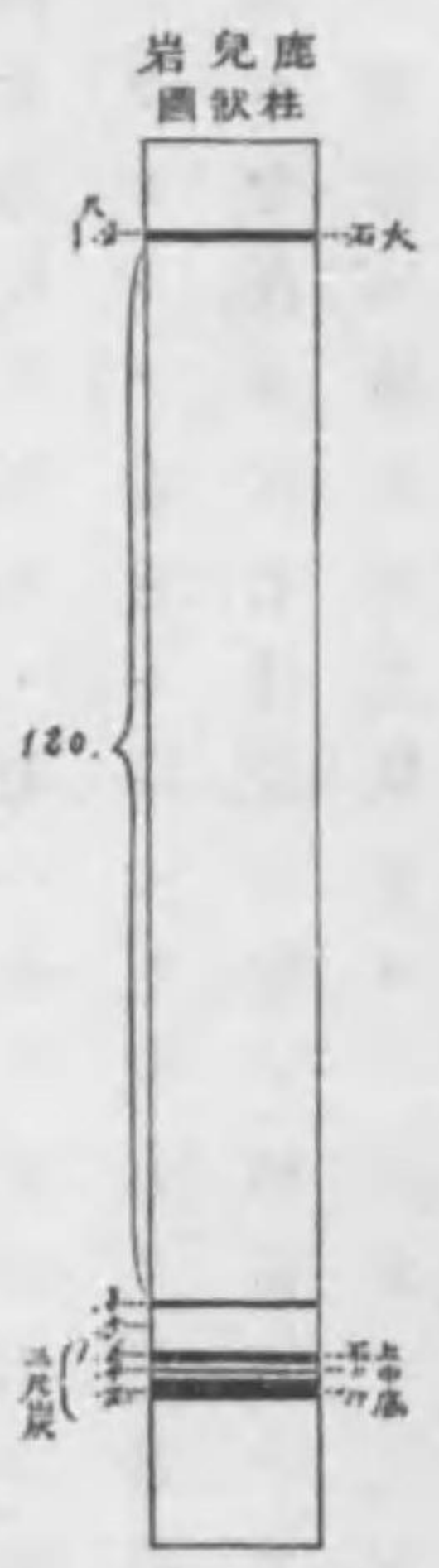
(粘結力〇・五五アリ)

茲ニ介在スル大石炭ハ上下ニ薄キ頁岩層アリ、之ヲ除去セハ堅實ナル
砥石磐トナリ、坑内普請ヲ要スル箇所少ナシ、坑内出水比較的少ナシ、日
々出炭額平均僅ニ五千斤ニ過キス
本山鑛區ニ於テ三尺炭ハ大石炭層ヨリ下ルコト百三十尺ノ所ニアル
ヲ以テ之ニ着手セントセハ排水容易ノ業ニ非サルヘシ

六、鹿兒岩炭山

本炭山事務所ハ相知村大字長部田ニ在リ、鑛區面積五十萬坪、巡回ノ當
時三井氏ノ所有トナリ更ニ平山村ニ連亘スル數炭坑區ヲ加エ、採炭事
業ヲ盛大ナラシムル創業ノ時ニアリタルヲ以テ當今トハ其趣ヲ異ニ
シタルヤ必セリ
長部田鹿兒岩方面ニ露ハル、炭層柱狀圖ヲ示ス
鹿兒岩ニ於テハ三尺炭ノ上(「サイノメ」炭ヲ見ス)百二十尺ヲ隔テ大石炭
ヲ介在ス

圖五十二第



三尺炭ノ上ニ五尺ヲ隔テ八寸炭ヲ介在ス、然レトモ採炭シ得ヘキハ三
尺炭ノミニシテ、三尺炭ハ上
石、中石及底石ノ三枚アリ、其
厚サ約四尺ニ達ス、炭質次ノ
相知炭ニ似タリ

炭層ハ鹿兒岩炭坑事務所近傍ニ於テ南々東ヨリ北々西ニ向ヒ西方ニ
約四度ノ緩斜ヲ爲シ、坑口ヨリ西南ニ向ヒ斜坑道約百五十間延長シ東
西ニ亘ル斷層ニ會ス、其南部ハ炭層約十三間凹落ス、該斷層ハ本山斷層
ノ此所ニ亘ルモノナリ、當時斜坑道近傍ノ採炭ニ過キサリシヲ以テ日
々ノ出炭額僅ニ三萬乃至四萬斤ナリシ、坑内採炭創業ノ際ナルヲ以テ
出水未タ甚シカラス、當時八「インチ」唧筒ヲ以テ排水セシム
前章陳述シタル如ク斷層線以東ノ炭層ハ西方ニ緩斜スルモ其以西ノ
炭層ハ東方ニ緩斜シ平山ニ露ハル、モノト略、山脉ニ向ヒ反斜層ヲ爲
ス第二十圖參照

鹿兒岩ヨリ一山脉ヲ隔テタル平山谷ニ於テ三井鑛業會社ノ試錐ヲ施行シタルモノ數箇所アリテ第二十圖ニ示ス如ク、(1)、(2)及(3)ノ箇所ニ於テ三尺炭ニ着炭シタリ、左ニ第一試錐断面圖ヲ示ス

圖六十二第



三尺炭ハ筋多ク良質ナラス、其下ニ七尺ヲ隔テ

、五尺炭アリ、其質稍佳良ナリ、五尺炭ハ鹿兒岩方面ニ露ハレサルヲ以テ鹿兒岩三尺炭ハ平山方面ニ三尺及五尺炭トナリシモノナラン、其上ニ四十六尺ヲ隔テ、七、ヘタ炭ヲ現出ス、其一部ハ大石炭ニ相當スルモノナラントノ説アレトモ鹿兒岩ノ柱狀圖ヨリ察スルニ大石炭ハ尙ホ上部ニ介在スル七寸炭ニ寧ロ相當スルナラレ

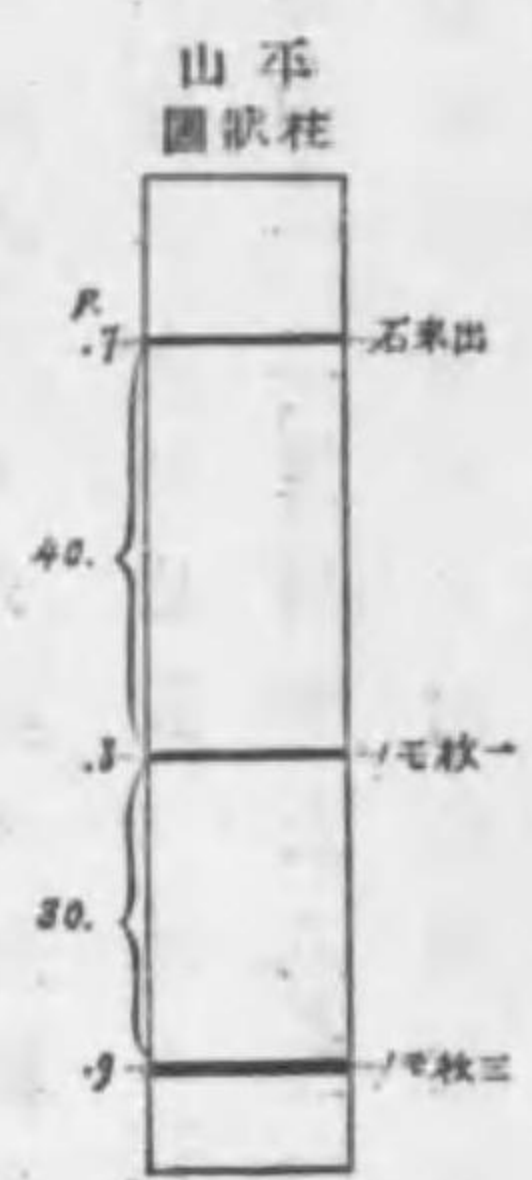
三井所有ニ屬スル鹿兒岩ヨリ平山ニ亘ル鑛區ニ於テ、三尺炭埋藏如此景狀ナルヲ以テ將來ニ平山方面ヨリ採炭ニ着手スル得策ナラン

山阜ニ鹿兒岩柱狀圖ニ示ス炭層ヨリ上層ノモノヲ介在ス、其形狀次ノ平山柱狀圖ヲ参照スヘシ

七、平山大光炭坑

平山下及平山上村ノ間ニ平山谷ノ西側ニ起伏スル山阜ニアリ、當時小松某ノ小稼行ニ屬ス、日々出炭額僅ニ三萬斤、此所ニ露ハル、ハ三尺炭ヨリ遙ニ上層ニ位スル三枚モノ炭ニシテ、茲ニ二枚モ厚一尺其上ニ尙ホ二條ノ炭層ヲ介在ス柱狀圖ニ示ス如シ

圖七十二第



圖ニ出來石ト稱シ示ス所ノ炭ハ油木原地方ノ出來石ト同層ニ非サルヘシ、層向ハ北々西ヨリ南々東ニ亘リ西方ニ緩斜ス、當時着手スルハ一尺炭ニシテ厚サ九

寸ハ採炭シ得ヘシ、坑口ヨリ坑道屈曲約二百五十間延長シ、當時「フケ」ハ坑口ヨリ百十尺下ル、坑内出水少量ナラス且ツ坑道ノ柵充分ナラサレハ將來稼行ハ益困難スルナラン

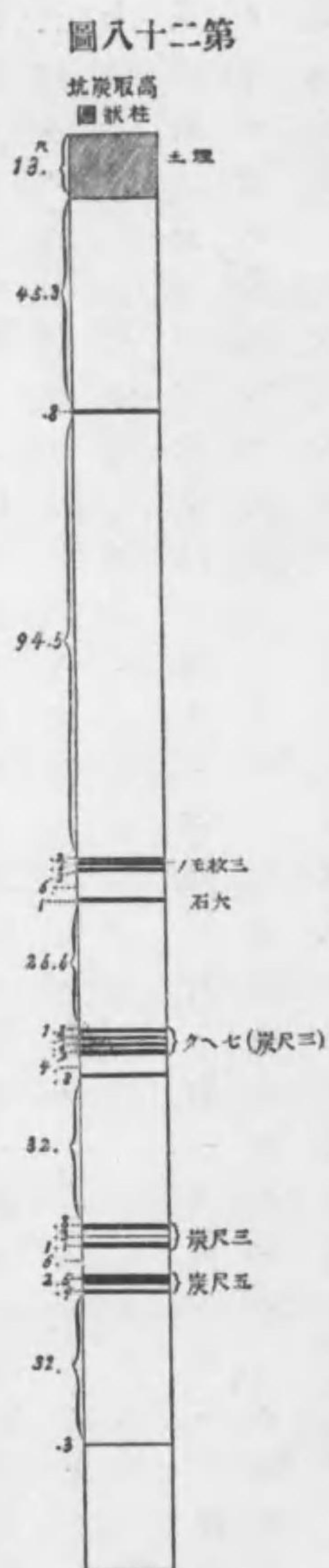
八、平山尾部田炭坑

平山上村尾部田炭坑ハ溪間ノ低地ニ位スル小鑛區ニシテ、井上某ノ稼行ニ屬ス、大光ノ三枚モノ此所ニ一枚モノ炭トナリ厚サ一尺上下ニ各、二寸計ノ「ガラリ」炭ヲ夾雜ス、傾斜約西南ニ七度、炭質ハ光澤アル燃炭ニ屬ス、左ニ分析成績ヲ示ス(分析課)百分中
水分四・一二、揮發物三八・三三、骸炭五二・三〇、灰分五・二五、硫黃三・七八
姑息稼行ニシテ出炭額微々タルモノナリ
平山村ニ於テ鳥越其他ノ地ニ尙ホ上部ノ薄炭層ヲ露頭シ、炭質佳良ナルモノアリト雖モ、採炭事業ノ充分ナラサル爲メ盛業スルモノヲ認メス

九、高取炭山(相知炭山)

相知町ノ東大字鷹取ニ高取炭山アリ、高取某ノ所有ニ屬シ、鑛區面積百七萬餘坪アリテ、日々出炭額約二十五萬斤ニ往來ス、長壁式ヲ以テ三尺及五尺炭ヲ探掘ス、採炭塊八分、粉二分ノ比率ナリトス、巡回ノ當時炭山

近傍ニ土場アリ、是レヨリ川舟ヲ以テ唐津ニ運炭シタルモ、當今ハ已ニ漚車ノ便アリテ運炭一倍ノ便ヲ加エタルナラン
高取炭山ニ於テ試錐セラレタル結果第二十八圖ニ示ス
下部ノ五尺炭及三尺炭ハ鹿兒岩及岩屋ニ於ケル下部三尺炭分裂シテ



此所ニ二枚ノ炭層トナリ現出シタルモノナルヘシ
三井試錐第一參照
三尺炭ハ薄條ノ夾ミヲ雜エ採炭シ得ヘキモノ稍二尺ニ達ス、五尺炭ハ厚サ二尺五寸及四寸炭ノ二枚ヲ介在ス、其炭長三尺ニ達ス、此上ニ更ニ三十二尺ヲ隔テ八寸及三尺炭ト稱スルモノヲ介在ス、該三尺ト稱スルモノハ數條

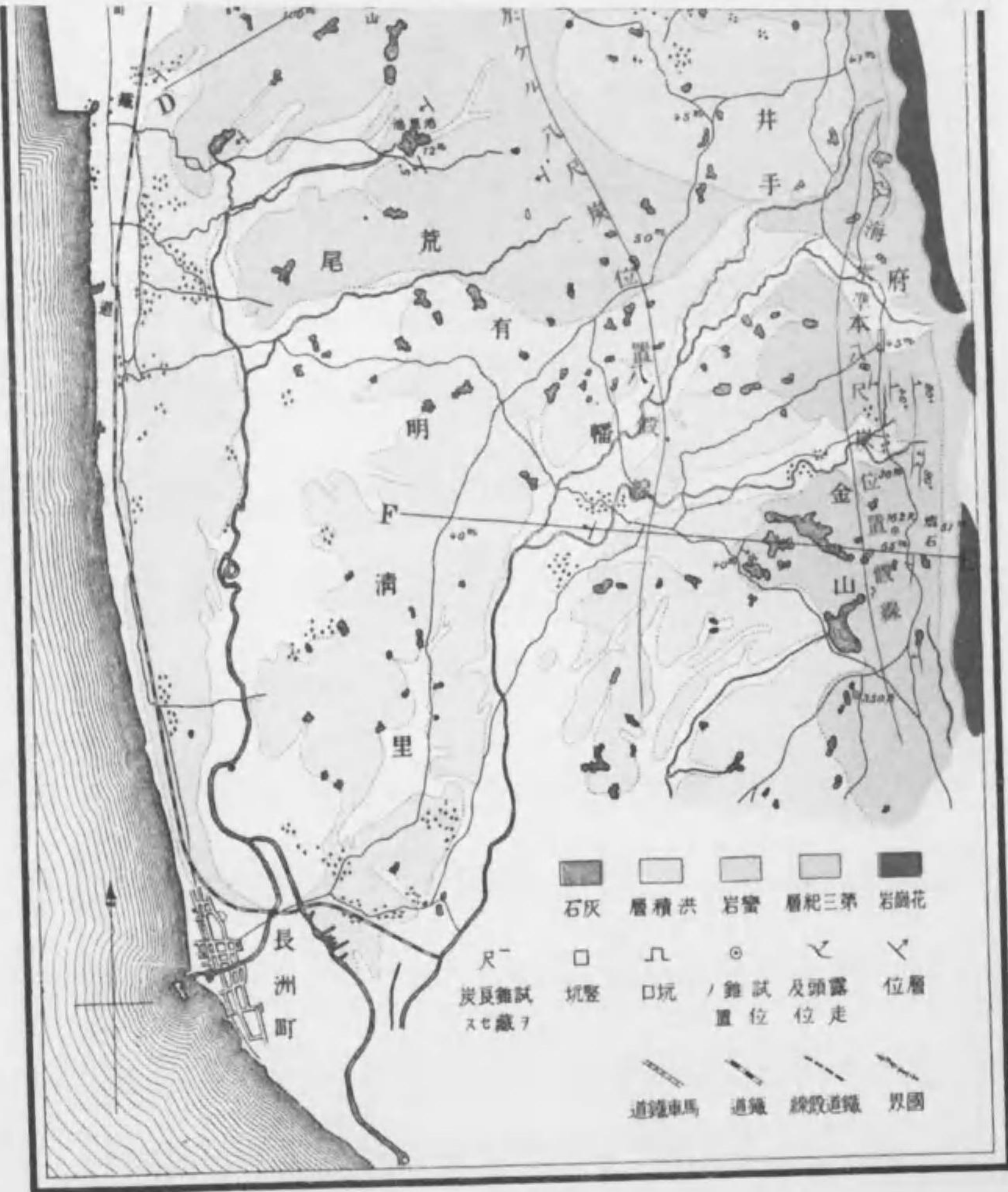
ノ炭層ヲ介在シ、其全部ノ炭長三尺四寸、炭質下部三尺及五尺炭ヨリ劣
ルモノトス、該炭層ハ相知炭山ニ於テ三尺炭ト稱スレトモ三井試錐地
ニ於ケル七「ヘタ」炭ニ相當スルモノナルヘシ、七「ヘタ」炭ヨリ上ニ二十六
尺ヲ隔テ、一尺炭ヲ介在ス、之レ鹿兒岩、岩屋炭坑等ニ於ケル大石炭ニ
相當スルモノナラン、同炭層ヨリ上ニ六尺ヲ隔テ、數條ノ薄炭層アリ
「三枚モノ」炭ト稱シタルモノニ相當スルモノナラン、「三枚モノ」上ニ九
十尺ヲ隔テ、八寸炭ヲ介在ス
八寸炭ノ上ニ尙ホ六十尺ヲ隔テ、相知ニ於テ七「ヘタ」炭ト稱スル數條
ノ薄炭層ヲ介在スル炭層アリ、蓋シ三井試錐地ニ於ケル七「ヘタ」炭ヨリ
遙ニ上層ニ相當スルモノ、如シ、尙ホ其上ニ三十尺ヲ隔テ、「二枚モノ」
炭アリ、其炭長ケ一尺、此レヨリ上ニ二十尺ヲ隔テ厚サ八寸ナル「一枚モ
ノ」炭ヲ介在ス、以上七「ヘタ」、「一枚モノ」及「二枚モノ」炭ハ相知山阜ニ露頭シ
低地ニ連亘セサルモノ、如シ
鑛區ノ西部ニ北九度西ノ方位ニ亘ル一大斷層アリ、該線西部ノ炭層ハ

三十五尺四落ス、斜坑及堅坑アリ、斜坑道ハ坑口ヨリ屈曲東方ノ「フケ」ニ
約三百間延長スト、而シテ堅坑ハ約百六十尺下ル、當今排水及風道ハ堅
坑ヨリス、炭層ハ南八度西ニ傾斜シ斜角約八度ナリ、鑛區ノ南部ニ數小
斷層アリト雖モ、西部斷層ノ如キ大ナルモノニ非ス、左ニ石炭分析成蹟
ヲ示ス(分析課)百分中
上炭 水分三・四、揮發物四一・〇三、骸炭五一・三〇、灰分四・二二、硫黃〇・五
七粘結力
並炭 水分三・五、揮發物四〇・一六七、骸炭五三・二一七、灰分三・〇六八、
硫黃〇・七四九
炭層ハ南部ニ向ヒ連亘スレトモ、採掘ノ進歩ト共ニ坑内出水ハ愈増加
スルナラン、相知近傍ニ於テハ三尺炭ト稱シタルモノ肥大シテ三尺及
五尺トナリ炭質モ稍良好トナリタルヲ以テ、以上松浦郡ニ屬スル區域
ニ於ケル良炭田ナリトス、然レトモ地下ニ深ク埋沒スレハ將來ニ採炭
及排水ニ困難ナル區域トス

該炭層ハ相知村ヨリ西部ニ連亘スルノ狀アリ
 相知即チ高取鑛區ノ炭層ハ西方ニ佐里鑛區ニ連亘ス、茲ニ層向西々南
 ヨリ東々北ニ緩斜スル炭層ヲ露頭ス、即チ山麓ニ「二枚モノ」炭及七「ヘタ」
 炭相知ニテ七「ヘタ」ヲ露頭ス、故ニ地下相知ノ三尺及五尺炭ヲ藏スルヤ必セ
 リ、其深サニ至テハ相知柱狀圖ヲ參照セハ推測スルヲ得ン、而シテ佐里
 鑛區ヨリ尙ホ西ニ岸嶽鑛區ニ連ナリ其所ニ斷層ノ爲メ炭層上リ、岸嶽
 山腹ニ「二枚モノ」炭ヲ露頭ス、是等炭田ハ平戸圖幅ニ屬シ本圖幅範圍外
 トス

三池炭田 第二十九圖 参照

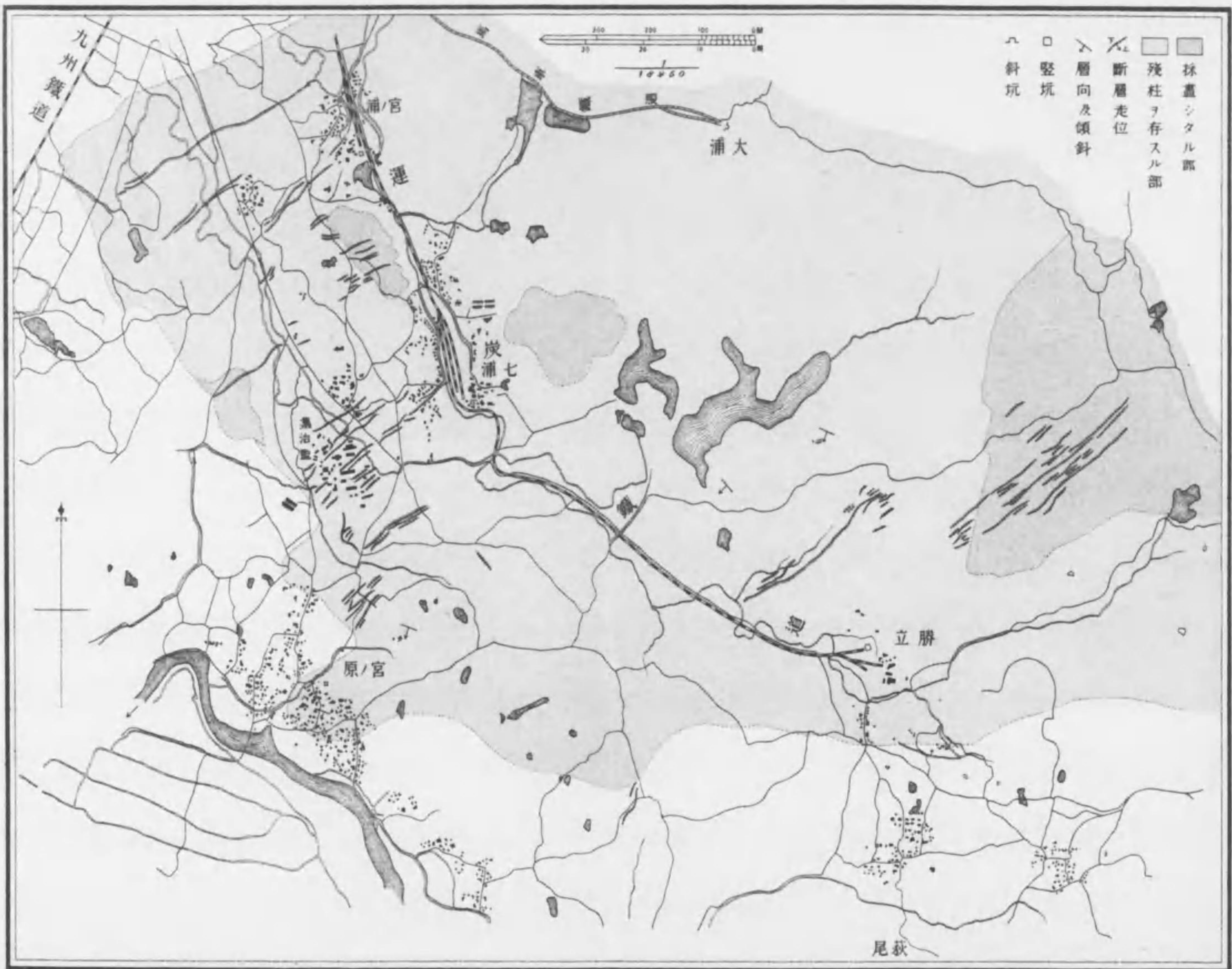
三池炭田ハ筑後三池及肥後玉名ノ兩郡ニ跨カル一大鑛區ニシテ探掘
 特許面積千六百八十萬坪アリ、東ニ花崗岩山骨ヲ以テ成ル九重山海拔四百三十
米及小代山海拔六百
四米ノ山脈ヲ負ヒ、挾炭層ハ之ニ凭リ西方ニ低起伏ノ山
 阜ヲ爲シ漸次ニ下リテ岡阜トナリ田畑墾ケ竟ニ平坦ナル海岸線トナ
 リ有明海ニ沈ム



九州鐵道ハ鑛區ノ西端ヲ貫キ大牟田驛ハ石炭輸出線路ノ咽喉ニ位シ、
 同町ハ鑛山事務所ノ所在地タリ、横須貯炭場ヨリ大牟田驛ヲ經テ炭山
 各坑ニ通スル運炭鐵道アリ、其距離略左ノ如シ
 横須貯炭場ヨリ 宮ノ浦マテ 一哩二七鎖
 同 七浦マテ 一哩七二鎖
 同 勝立マテ 三哩一〇鎖
 宮ノ原 七浦ヨリ 二哩七四鎖
 萬田 宮ノ原ヨリ 三哩六八鎖
 大浦坑ヨリ大牟田驛ニ通スル既設馬車鐵道アリ、當今大浦坑ヨリ七浦
 ニ通スル運炭鐵路開設中ニ係ハレリ
 歴史 三池炭山ハ今ヲ去ルコト百七十九年時ノ領主立花某平野山ヲ
 開掘シ、後生山ニ着手シタリ、明治六年政府ノ所轄トナリ此地ニ鑛山局
 ヲ置キ洋式ノ機械ヲ裝置シ事業ヲ擴張シ頗ル改良進步ヲ加エタリ、降
 テ明治二十二年民業ニ移サレ現今所有者ナル三井氏所屬トナレリ、爾

來精新ノ機械ヲ裝置シ事業ニ發達擴張ヲ圖リ以テ今日ノ盛況ヲ見ル
ニ至レリ、左ニ最近三箇年ニ於ケル三池炭山ノ産額ヲ示ス
明治廿九年産額 六九八、〇四六噸 同海外輸出高 三八八、二五二噸
同 卅一年同 六一二、七六八噸 同 三〇八、五八二噸
同 卅一年同 七四四、〇二六噸 同 三二五、五三五噸
地形 大牟田町ハ三池炭田ノ北西端ニ位シ、現今出炭盛況ヲ極ムル七
浦、宮ノ浦、宮ノ原、大浦及勝立坑ノ咽喉地タリ、大牟田町ノ西方ニ三池村
アリ、挾炭層ハ北ニ三池村ヨリ大牟田町ニ通スル低地、即チ白銀川ノ流
域ヨリ南ニ漸次昂起シ、前章陳述シタル久重山ヨリ小代山ニ連ナル花
崗岩山骨ニ凭リ重層ス、炭田ハ從テ東邊ニ於テ隆起ス、三池村ヨリ府本
村ヲ經テ高瀬町ニ通スル三池府本村間ノ道路ハ挾炭層東邊ノ境界山
阜ヲ通過スルモノナリ、故ニ該山路ニ接シ挾炭層ハ高地ヲ占ム、即チ三
池村ノ南ニ平野山海抜約百五十米突、高田山海抜約百四、十五米突、峠等ノ山阜アリ、諏訪川低地ヲ南
ニ渡リ高サヲ減シ、松坂ヨリ府本ヲ經テ金山ニ通スル約四十乃至六十

第三十圖



地形 大牟田町ハ三池炭田ノ北西端ニ位シ、現今出炭盛況ヲ極ムル七
 浦、宮ノ浦、宮ノ原、大浦及勝立坑ノ咽喉地タリ、大牟田町ノ西方ニ三池村
 アリ、挾炭層ハ北ニ三池村ヨリ大牟田町ニ通スル低地、即チ白銀川ノ流
 域ヨリ南ニ漸次昂起シ、前章陳述シタル久重山ヨリ小代山ニ連ナル花
 崗岩山骨ニ凭リ重層ス、炭田ハ從テ東邊ニ於テ隆起ス、三池村ヨリ府本
 村ヲ經テ高瀬町ニ通スル三池府本村間ノ道路ハ挾炭層東邊ノ境界山
 阜ヲ通過スルモノナリ、故ニ該山路ニ接シ挾炭層ハ高地ヲ占ム、即チ三
 池村ノ南ニ平野山海拔約百四十五米突、高田山海拔約百四十五米突、峠等ノ山阜アリ、諏訪川低地ヲ南
 ニ渡リ高サヲ減シ、松坂ヨリ府本ヲ經テ金山ニ通スル約四十乃至六十

五米突ノ低起伏ノ山阜ヲ擧出ス
平野山、高田山及峠ノ山阜ハ西方ニ起伏シテ漸次ニ下リ大浦七浦間ノ
海拔八十米突ノ山阜ヲ成ス、緩慢ナル低起伏ノ山阜ハ數所ニ溜溜池ヲ
現出シ其稍大ナルヲ早鐘池トス、宮ノ浦、七浦間ノ山阜ハ西方ニ其高サ
ヲ減シ岡阜狀トナリ其稍高キヲ片平山海拔五十
一米突トス、高田山ヨリ片平山
ニ連ナル山阜ハ南ニ諏訪川ニ向ヒ原野狀ノ岡阜トナリ漸斜ス、低阜ノ
正原、萩尾及集治監臺地ニ於テ灰石層ヲ重積ス
諏訪川ノ南ニ松坂ヨリ府本ヲ經テ金山ニ連ナル山阜ハ西方ニ漸次下
ルモ松坂山阜ハ諏訪川ニ面シ、西方ニ起伏シテ連ナリ其高キモノヲ萬
田山トス海拔百十
八米突萬田山ヨリ金山ニ連ナル山阜ハ西南ニ谷豁キ長洲町
沿岸ニ下ル、八幡及有明村ノ丘岡狀臺地ハ海拔約四十米突トス
沿岸ハ遠淺ニシテ船舶出入ニ便ナルハ既設横須船渠アルニ過キス、茲
ニ海底ヲ浚ヒ運炭船ノ出入ヲ便ニシテ不斷積出場トス
當今開坑スル各炭坑ハ大牟田驛ヲ中心トシ鐵路ヲ布設シ、距離一里ノ

間ニ散在セリ、而シテ大牟田驛ヨリ更ニ横須貯炭場、或ハ九州鐵道ニ依
 リ三角、長崎及門司港ニ通スレハ水陸運輸共ニ完備セリ
 地質、三池挾炭層ハ新生大統ノ第三系ニ屬スルモノナリト雖モ、其化
 石ヲ藏スル僅ニ *Cardium* sp. (海月貝)、*Tellina* sp. (テリーナ貝)、*Pecten* sp. (海扇) 等ノ
 不充分ナルモノニ過キスシテ特有ナル化石ヲ産セサルヲ以テ第三系
 ノ何期ニ屬スルヤ明カナラス、然レトモ三池挾炭層ノ配置及層位ト、肥
 前杵島郡挾炭層ノ配置及層位トヲ比較シ、有明海ノ形狀ヲ察スルニ挾
 炭層ハ有明海ニ向ヒ緩緩ナル盆狀窪地ヲ爲シ相連亘スルノ狀アリ、而
 シテ杵島挾炭層ハ肥前ノ松浦、或ハ彼杵郡ノ挾炭層ト、略時代ヲ同フス
 ルノ思アラシム、而シテ彼杵炭田ノ如キ第三系ノ古層ニ屬スル事實ア
 リト雖モ、未タ何期ニ屬スルヤ明カナラス、要スルニ三池挾炭層ハ是
 等挾炭層ト時期ヲ共ニセシモノ、如ク、第三系古層ニ屬スルモノナラ
 シ

三池挾炭層ナル第三紀層ハ下部青白色砂岩及疊岩 疊岩ハ處ニ依リ其厚ヨリ
 サラ加エ或ハ減ス

成リ、上層スルニ從ヒ黝色頁岩ヲ雜エ、數條ノ炭層ヲ介在ス、炭層ヲ介在
 スル近傍ノ頁岩ハ地表ニ曝露セラル、ヤ之ニ含有セラル、揮發質有機
 物ハ漸次ニ酸化シ、頁岩ヲシテ紫色ヲ呈セシムルモノアリ、砂岩、頁岩ノ重
 層ハ尙ホ上層スルニ從テ砂岩ノ厚サヲ減シ、砂岩、頁岩ノ累層トナル、挾
 炭層近傍ノ砂岩ハ杵島挾炭層ノ砥石ト稱シタルモノヨリ稍粗粒ナル
 傾キアリ、上層八尺炭ヨリ約五百尺上層ニ介化石ヲ藏スルモノアリ 三
 里
及試錐及鑿立
 暨坑ニヨリ 炭層以上ノ重層ニ關シテハ三池炭山ニ於テ數所ニ施行シタ
 ル試錐表ニ依リ層列ヲ推定シ得ヘシト雖モ、砂岩、頁岩、及疊岩隨所其厚
 サヲ異ナラシムルヲ以テ、炭田一定ノ層列ハ茲ニ示ス能ハス 試錐地及深
 サ地圖參照
 第三紀重層ノ下部ハ大牟田町ノ東ナル字稻荷ヨリ東方ニ彎曲シ、平野
 山、生山ヲ經テ高田ニ亘リ花崗岩ノ古岩ニ接シ、是ヨリ南方ニ層向南ニ
 轉シ、花崗岩ト境ヲ接シ、金山村ニ亘ル、其彎曲シタル形狀炭ノ露頭ヲ追
 跡セハ殊ニ著シキヲ證スルニ足ル 第二十九
 圖參照、而シテ下部ノ重層ハ彎曲シ
 テ西方ニ緩斜スレハ、下層ノ上ニ疊層スルモノハ之ニ倣ヒ西方ニ緩斜

シ、宮ノ浦、七浦、勝立、田倉、池黒池近傍ニ於テハ五乃至六度ノ勾配ヲ爲シ西々南ニ緩斜ス、八幡、金山露頭間ニ重層向斜狀ヲ爲シ、茲ニ地下ニ埋藏スル炭層ノ深サヲ淺カラシムル狀ヲ呈シ、西方ニ反斜狀トナリ洪積層ノ地下ニ埋没ス

海岸線ノ四ツ山山阜ノ二頭山北端ニ層向稍亂ル、箇所アリ、蓋シ其北方ノ海底ニ於テ斷層ノ存在スル爲メ然ル所以ナラン

三池炭山ノ調査ニ從ヘハ炭層八層アリト稱ス大浦坑主任内閣氏ノ説然レトモ余ノ僅少ノ時間ヲ以テ踏査シタル際ニ五枚ノ炭層ハ確ニ認ムルヲ得タリ

層列ハ傾斜緩慢ナル大浦坑北方ノ山阜ニ於テ認ムルヲ得、上層ナルハ三池八尺炭ニシテ此地下ニ六尺乃至十尺ヲ隔テ六尺炭ヲ介在シ、其地下三百尺ヲ隔テ四尺炭四枚目炭ト稱スルモ其地下九十三尺ニ稍厚キ炭ニ相當スルモノナラン尙ホ其地下二十

九尺ニ四尺炭六枚目炭ニ相當スルモノナランヲ介在ス内閣氏調査圖ヲ參照トス左ニ豫測柱狀圖ヲ示ス

第三十一圖層列ハ生山近傍ニ好露頭アリ生山ニ於テハ重層傾斜急峻ニシテ、平野、稻荷近傍ニ於テハ傾斜緩慢ナルヲ以テ、從テ露頭良好ナラ

第三十一圖



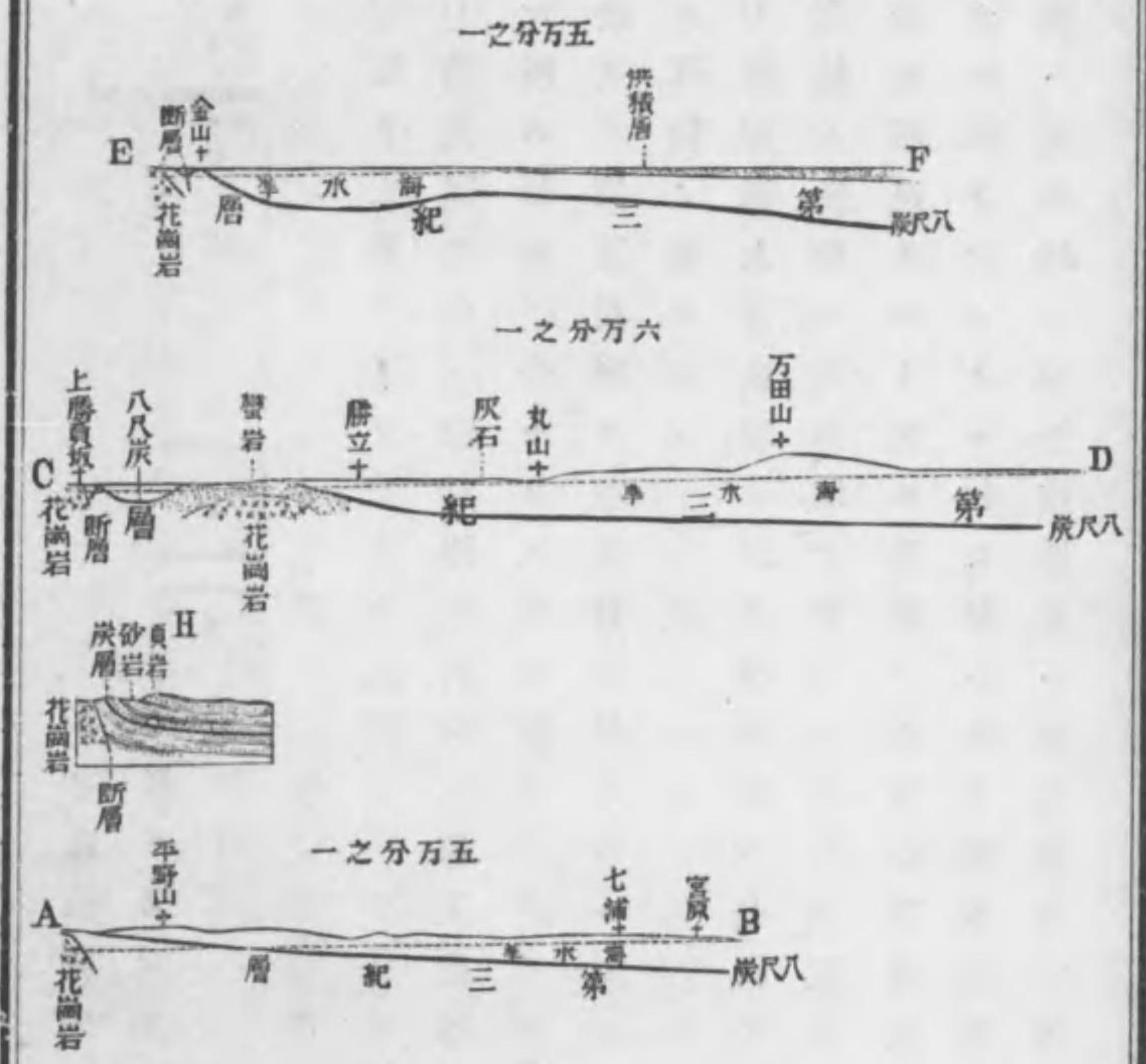
ス、此他薄條ノ炭層ヲ介在スルアリト雖モ、著シキモノヲ認メサレハ茲ニ之ヲ省ク

層存賦ノ大要ヲ示サントス(第三十二圖參照)

A B 断面圖、生山、三池村間ニ於テハ第三紀層ハ花崗岩ヲ被覆シ其相接スル所ニ斷層ヲ介セス(八尺炭以下ノモノハ省ク)、生山ヨリ南、高田近傍ニ於テハ第三紀層ノ花崗岩ニ接スルトコロニ斷層ヲ介シ、重層ノ褶曲スルH圖ノ如シ、

C D 断面圖、上勝負坂ニ於テ挾炭層ハ花崗岩ニ斷層ヲ以テ界シ挾炭層ハ褶皺シ炭層ハ西南、即チ勝立ニ向ヒ挾炭層ノ砂岩、頁岩累層、漸次砂質疊岩ニ移過スルト共ニ炭層ヲ消失シ、其西南ニ再ヒ現ハレ勝立ニ向ヒ厚サヲ加フルモノ、如シ、第二十九圖松坂、田倉、ノ南ニ疊岩層ヲ以テ示ス所ハ、此區域ノ地下挾炭層ハ砂質疊岩ヲ増加シ炭層ヲ薄條トナラシ

圖二十三第



於ケル炭層ノ如キ八尺
箇所アリ、又勝立近傍ニ
シ厚サ二十尺ニ達スル
八尺炭ハ所ニ依リ肥大
モノナラン
部ノ八尺炭ニ相當スル
サ四尺五寸炭ハ蓋シ北
シ、此近傍ニ露ハル、厚
シテ埋藏スルモノ、如
炭層ハ西ニ向ヒ稍褶曲
層ハ褶皺シテ断層多シ
E F 断面圖金山近傍炭
定ス
ムルトコロナラント想

圖附二十三第



炭ノ間ニ砂岩ノ夾ミヲ雜エ炭層第三十二附圖乙(イ)ニ示
ス如キ景狀ヲ呈ス、故ニ八尺炭ノ下ニ九尺ヲ隔テ六尺炭
ト稱スルモノ、如キハ、一區域ニ乙圖ノ様ナル稍廣大ナ
ルモノナルヤ、或ハ二條ノ炭層ナルヤ、炭田北部炭層ニ就
テ研究スルハ必要ナルコトナラン
三池挾炭層ハ東部花崗岩地骨ニ接シ断層ヲ以テ界ス平野山
生山近傍ニ於テハ約八十度ノ急斜ヲ爲シ勝負坂近傍ニ於テハ重層褶
皺ヲ爲シ其上部脱蝕シテ數條ノ炭層ヲ露頭ス
抑炭層ハ往昔沼湖、或ハ入江狀ノ盆地ニ成層シ數多ノ星霜ヲ經過スル
ト共ニ地形變動シ爲メニ其上ニ砂岩、頁岩或ハ炭層ヲ重積シタルモノ
ト追想セシムレハ、三池炭田挾炭層ノ砂岩及頁岩ノ處ニ依リ疊岩層ヲ
殊ニ厚ク重積シタル區域アリ三池炭田地質圖參照 其理由タル往昔炭層成層ニ際
シタル地形ノ然ラシムル所ニシテ、三池炭田ニ於テ炭層ノ殊ニ疊岩ノ
厚サヲ加フルノ區域ニ向ヒ炭層ノ厚サヲ減スルハ、地質ノ然ラシムル

所以ニシテ偶然ノ事ニ非ス
 府本村ノ南、金山村^{F断面圖E}ニ地層褶皺シ其西ニ急斜スル挟炭層ハ西方
 ニ少シク昂カリ其所ニ反斜層ヲ爲スモノ、如シ、假ニ此反斜層ヲ爲ス
 ノ地ニ豎坑ヲ穿タントセハ地表ヨリ約四百尺以内ニ於テ上炭層ニ會
 スルナラント概察ス、此區域三井氏所屬タルヤ否ヤ明ラカナラスト雖
 トモ、將來ニ向テ此近傍ニ試錐スルハ炭田配布上最モ必要ナルコト推
 考セラル

上層ナル八尺炭露頭、重層々位、其他地質、地形等ヨリ數箇ノ断面圖ヲ調
 製シ八尺炭ノ地下埋藏ノ形狀ヲ案スルニ海水準及海面下五百尺ニ於
 ケル位置假線ハ略、朱線ヲ以テ示ス^{第二十九圖參照}モノ、如シ
 前章ニ陳述スル如ク勝立坑ノ東方及田倉松阪區域ニ疊岩ヲ發達シ炭
 層ヲ消失セシムルノ傾キアリ

第三紀層ハ高田ヨリ南ニ府本ニ向ヒ、花崗岩ト境界ヲ相接スル近傍ニ
 於テ地層横壓作用ノ爲ニ褶皺シ略、東西ニ亘ル斷層ヲ現出スルモノア

リト雖モ、其他ハ小斷層ニ過キスシテ方向東北ヨリ西南ニ亘リ略、并趨
 スルヲ殊ニ著シトス^{第三十圖參照}而シテ是等數多ノ小斷層ハ横壓作用ニ起因
 シタルヤ否ヤ、尙ホ將來ニ於ケル事實ニ依リ審ナルヲ得ン、C D及E F
 断面圖ニ於テ挟炭層ノ花崗岩ニ相接スルノ邊ニ褶皺ヲ生シ、其際斷層
 ヲ其所ニ顯出シタルモノナラン、府本金山間ニ於テハ炭層ノ厚サ四乃
 至五尺ニ達スルモノアリ北部炭田ノ八尺炭ニ相當スルモノナラン、而
 シテ此近傍ニ數條ノ炭層ヲ露出スルハ重層ノ褶皺及斷層ニ起因シ其
 下層ナル數條ヲ露頭スルモノニ非サルヘシ
 前章記スル如ク三池炭層埋藏ノ景狀略、第二十九圖ニ示ス而シテ水準
 線ノ配置ハ數所ニ觀察シタル断面ヨリ算出表示セルモノニシテ調査
 ニ從事シタル當時ニ於ケル材料勿論充分シタルモノニ非スト雖モ此
 區域炭田事業上ニ關シテハ試錐其形狀ヲ確ムルハ將來ニ最モ必要ナ
 ラント欲シ聊サカ參考ニ供セントスルニアリ
 炭質 三池炭ハ黝色ニ稍、淡赭色ヲ帶ヒ外觀美麗ナラサルモ其灰分ニ

少量ナルト之ヲ燃燒セハ非常ノ發熱力アル粘結性ノ餅炭トナルトヲ以テ其聲價ハ東洋石炭市場ニ於テ廣ク識認セララル、モノタリ、炭山ニ於テ採炭ニ着手スルハ八尺炭(上層)ニシテ其以下ノモノニ未タ着手セスト雖モ、下層ハ共ニ炭質上層ノ八尺炭ニ及ハス、且ツ下層ノ三枚ノ如キハ地下ニ深ク埋藏シ其厚サ及炭質ヲ大浦坑北部露頭ニ就テ觀察セハ遙ニ八尺炭ニ劣ル、而シテ八尺炭ノ下ニ介在スル六尺炭柱狀圖ハ其厚サ平均五尺炭質八尺炭ニ次キ稍、良好ナルヲ以テ三池炭山ニ於テハ將來之ヲ採炭スルノ企圖アルモノ、如シ

八尺炭ハ夾ミ少ナキ良炭ニシテ厚サ八尺、其最モ厚キトコロ二十尺ニ餘リアリ、採炭ハ塊炭、中塊炭、切込炭、粉炭等ニシテ開採支柱式ヲ用ヒ、坑内鐵路ヲ布設シ坑外ヘノ運搬斜坑及豎坑アリテ總ヘテ經營ニ完備セリ、而シテ排水ニハ殊ニ最新ノ機械ヲ据エ付ケ、當時勝立及七浦豎坑ヨリ水準以下ノ坑内湧水ヲ集メ多量ニ排出セシム、當時採炭スル最深底ハ宮ノ原方面ニアリテ海水準下約六百尺ノ所ニ達セントス、當今豎坑

開鑿中ニ係ハル萬田豎坑ハ約七百尺ノ深サニアルヲ以テ、海水準下六百尺以下ノ地ニ位ス、炭山興廢ハ地下排水如何ニ係ハリ炭山技術家ノ苦心經營セララル、トコロタリ

左ニ三池炭ニ就テ分析試驗成績ヲ示ス

英國ウオソン、スミス氏三池炭分析成績(三池炭鑛記事ヨリ轉載、明治二十四年化學會報告書ニ依ルト云フ)百分中

甲 炭素七五・二二、水素五・八四、窒素一・一一、硫黃三・一五、水分〇・六二

乙 同 七四・八八、同 五・九一、同 ナシ 三・一三 同 〇・六五

同氏ノ試驗ニ依レハ一噸ニ付瓦斯生産高一、〇三三立方尺、同骸炭量一、二九七封度、同ター分量二五〇封度、同水分二五〇封度而シテ燭光力ハ二三・四二燭力ナリト謂フ

二十八年本所分析試驗成績百分中

炭素七五・一九、水素五・一三、窒素〇・九二、灰六・八四、酸素八・九二

三十三年ニ採集シタル三池宮ノ浦八尺炭分析成績(分析課)百分中

水分一・一四六、揮發物三九・八六三、骸炭五三・七二二、灰分五・二六九、硫黃三・

○六三

(粘結力三・七五)

同年勝立八尺炭(同前)

水分○・七九三、揮發物四九・四五五、骸炭四○・四二七、灰分九・三二五、硫黃二・九四六

(粘結力二・五五)

同年七浦八尺炭(同前)

水分一・〇〇二、揮發物四〇・三三六、骸炭五一・〇〇二、灰分七・六〇〇、硫黃五・〇〇二

(粘結力三・四五)

同年大浦八尺炭(同前)

水分○・八七九、揮發物四〇・三三二、骸炭四九・二一九、灰分九・五七〇、硫黃四・〇五二

(粘結力二・六五)

炭層中ニハ往々松岩或ハ「ゲッテン」ト稱スル炭硅化木石ヲ交雜ス、其狀筑

豐煤田ニ於ケル松岩ト同狀ナリ、左ニ其分析成績ヲ示ス(百分中)分析課
水分○・四八八、揮發物八・三三四、骸炭六・四二七、灰分^{主ニ硅ナリ}八・四七五、硫黃
○・九九二

塊炭、中塊炭及切込炭ノ炭種ニ就テ二十四年ニ施行セラレタル蒸氣力
發生試驗表左ノ如シ

塊炭 華氏二二度ノ熱度ニテ
石炭一封度ノ蒸發水量 八・六、四 封度 灰分及石分 一一・二(百分中)

中塊炭 同上 八・一六 同 一四・五

切込炭 同上 八・〇二 同 一五・六

大浦、宮ノ浦、七浦、勝立等ノ各坑ニ於テ^{第三十圖參照}各區畫ヲ定メ探炭セラル、而
シテ是等區畫ニ於テ各坑口ヨリ坑底マテノ最長距離ヲ有スルモノハ
大浦四、八二四呎、七宮ノ浦三、七九五呎、七浦五、二一四呎等ナリ

炭層ハ東ニ褶曲スル區域ニ粉炭ノ量ヲ加エ、即チ金山、府本近傍ニ於テ
其甚タシク褶曲スル地ニ在テハ粉炭ノ量ヲ甚タシク増加ス、故ニ南部
層炭ノ褶曲著シキ區域ニ於テハ探炭スルニ當テハ頗ル撰炭ヲ要スヘ

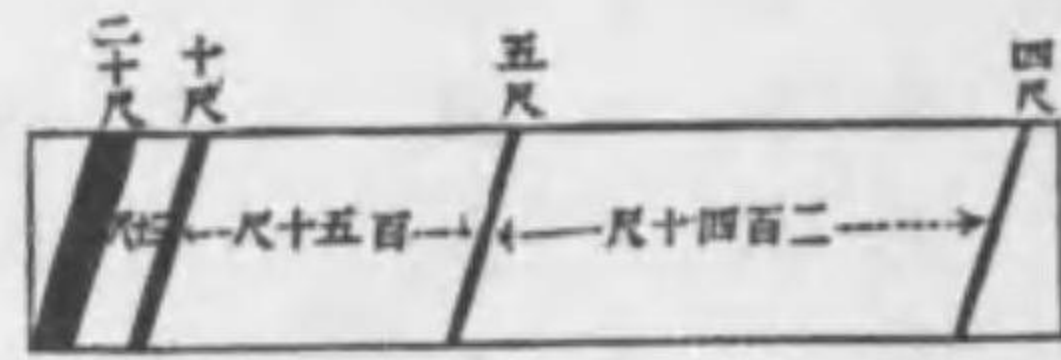
岩中數條ノ石英脈ヲ介在シ國界山脉ヲ東西ニ横切シテ存在ス、故ニ山脉ノ表裏即チ八女郡星野方面及日田郡方面ノ山阜ニ數多ノ金鑛脈ヲ散在ス

鑛脈ハ石英脈ニシテ厚サ一尺乃至二十尺、硫化鐵鑛ヲ以テ鑛染シ稀レニ閃亞鉛鑛ヲ散點スルモノアリテ通常少量ノ金銀量アリ、鑛脈散在ノ景狀第三十三圖ニ示ス如シ

黒木谷、餘リ、金時、柏田金山、仁田原、小室、百貫等ニ數條ノ鑛脈ヲ胚胎シ姑息稼行ニ屬スルモノ多シ、百貫鑛脈ハ從來村稼行ニ屬シ、姑息營業ヲ爲ス其他ニ在テハ巡回シタル當時試業ニ屬スルモノ多クシテ未タ金山トシテ進歩的事業ヲ起興スルニ際セス

一、星野金山、星野村大字千々屋ニ屬スル山阜ノ餘リ及金時ト稱スル所ニ數條ノ石英脈ヲ介在ス、當時平岡某ノ所有ニ屬ス、金時ニ數條ノ石英脈ヲ介在ス、其狀第三十四圖ニ示ス
石英脈ノ厚サ四尺乃至二十尺ニ達スルモノアリテ少量ノ硫化鐵及石

第三十四圖



灰石ヲ雜エ少量ノ金銀量アルモノアリ、然レトモ石英脈ノ厚サ肥大ニ失シ從テ鑛石散點トナリ集合スル所少ナキヲ以テ採鑛スルニ當テ撰鑛極メテ難ナリ、左ニ本山安田某分析セラレタル成績ヲ示ス(百分中)

山道金時坑一番 金〇〇〇一、銀〇〇〇二八、同坑三番 金〇〇〇四六、銀〇〇〇一二四、同坑四番 金〇〇〇一八、銀〇〇〇四四、
當所分析課ニ於テ施行セラレタル成績ヲ示ス(百分中)

山道金時 金痕跡、銀〇〇〇三

金時東方小字「餘リ」ニ數條ノ石英脈ヲ介在ス、走向東々南ヨリ西々北ニ亘リ稍、金時ノモノト并趨ス、石英脈ハ此所ニ厚サヲ減シ硫化鐵及僅少ノ閃亞鉛鑛ヲ散點シ、金銀含有稍、良好ナル景狀ヲ呈ス、(鑛脈存在ノ形狀第三十三圖參照)左ニ安田某分析セラレタル成績ヲ示ス(百分中)
餘リ第一坑 金〇〇〇二四、銀〇〇〇六八

同 第二坑 金〇〇〇三二、銀〇〇〇七四

巡回ノ當時姑息ノ水車製鍊ヲ以テ試験中ニ屬シ水車一臺八本ノ杵ヲ使用シ一晝夜鑛石七八百斤ヲ舂キ、一臺約四々ヲ得ルト謂フ

二、柏田金山 字坂ノ下村ノ東ニ一條ノ石英脈ヲ現出シ松山金山ノ北ニ連ナル、走向第三十三圖ニ示ス如ク、西々北ヨリ東々南シ脈ノ厚サ三四十尺ニ造ヒ少量ノ硫化鐵及閃亞鉛鑛ヲ斑點シ金銀量アリ、山麓ノ溪流ニ姑息ノ水車製鍊場ヲ設ケ、此處ニ撰鑛ヲ舂ツキ一箇月百乃至二百々ヲ得ルト謂フ、而シテ金銀ヲ相雜ユルノ比率ハ金五分半・銀四分半ナリト

柏田鑛脈ノ南ニ字小竹ヨリ字仁田原ニ通スル石英脈アリ、厚サ柏田金山ノモノニ劣ルモ鑛石品位相似タリ、松山金山ニ於テ之ヲ採掘シ姑息水車製鍊ヲ以テ稼行シ、鑛石百斤ヲ舂キ約一分ノ青金ヲ得ルト謂フ、青金ハ金六分二厘、銀三分八厘ノ比率ナリ、撰鑛及淘汰法ニ付テ注意改良ヲ加エサレハ事業良況ナラサラン

此近傍ナル仁田原、山ノ神、浦等ニ姑息ノ水車ヲ設ケ小稼行ヲ爲スモノアリ、其産額ニ著シキモノナシ、柏田、松山、仁田原、山ノ神、浦等ノ小稼行金山ヲ合併セハ月額二千圓位ニ價スル産額ナリ、而シテ鑛石ハ多量ニ存在スルト雖モ、貧鑛ニ屬スルモノ多ク其撰鑛シタルハ青金量平均十萬分ノ二ノモノヲ得、青金ハ金五分九厘、銅四分一厘ノ比率ナリト

三、星野金山合資會社 大字小室近傍ヨリ百貫ニ至ル山阜ニ數條ノ石英脈ヲ介在シ星野金山合資會社鑛區ニ屬ス、村稼行ノ小採鑛場多シ、百貫ニ於テハ多數ノ舊坑アリ、蓋シ大開時代ニ稼行シタルモノナラン、明治ノ始頃有馬家ニ於テ稼行シタル箇所アリ、降テ明治二十四年頃ヨリ村稼行ト爲シ百貫近傍ノ鑛石ヲ採掘シ下流ノ溪間ニ數多ノ姑息水車製鍊場ヲ設ケテ稼行ス、村稼行ニシテ受買圖ヲ爲シ各獨立ノ水車場ヲ設ケ營ム故ニ小室村總産額ハ明ラナラサル點アリト雖モ、一箇年約四五貫目ノ産額ナラン

小室近傍ヨリ百貫ニ向ヒ介在セル數條ノ鑛脈走位ハ略東西ニ亘リ其厚サ五寸乃至四尺ノモノ多ク、前章ノ柏田松山、星野金山等ノ如キ廣大

ナルモノニ非ス、從テ鑛脉中鑛石ヲ鑛染シタル部モ稍定マリ採鑛及撰
鑛上前者ニ較フレハ甚タ良好ナリ、巡回ノ當時百貫ノ尾詰及男山採鑛
場ニ於ケル鑛脉最モ良况ヲ呈シタリ、左ニ分析課ニ於テ施行セラレタ
ル成蹟ヲ示ス(百分中)

男山金 痕跡 銀〇〇一六

同上鑛同 同 〇〇一六

百貫舊坑 金痕跡 銀〇〇〇五

同尾詰 同同 〇〇〇四六

鑛脉中往々粗粒ノ金鑛ヲ散點スルトコロアリト雖モ、如此良好部ハ稀
有ニシテ平均鑛石品位ハ以上略述シタルモノ、如キモノ多シトス星
野金山ノ裏山ニ位スル豊後日田郡合瀬村大字原部、鯛生、猪ノ野ノ諸村
ニ屬スル山阜ニ數條ノ鑛脉ヲ胚胎ス
四、鯛生村近傍鑛脉 日田郡原部村ノ山阜ニ二條ノ銅鑛脉ヲ介在シ、其
一ハ東北ヨリ西南ニ亘リ東南ニ急斜ス、一ハ東西ニ亘リ之ト交叉スル

アリ、鑛脉ハ厚サ尺乃至四尺ノ石英鑛ニシテ、此所ニ黃鐵鑛及黃銅鑛ヲ
散點ス、鑛石ハ貧鑛ニ屬スレトモ二脉ノ交叉スル近傍ニ於テハ四分乃
至三分ノ含銅量ノ鑛石ヲ胚胎スト謂フ、當時速水某ノ試掘地ニ係ハレ
リ、鯛生村ノ山阜ニ厚サ四尺ノ石英脉アリ、走向東西ニ亘ル、堤及猪ノ野
村ノ山阜ニ金鑛脉アリ、其質星野鑛脉ニ甚タ相似タリ、猪ノ野村ノ北ニ
於テ之ヲ採鑛小稼行スルモノアリ、未タ充分ナル結果ヲ得テ起業スル
モノヲ認メス
合瀬村山阜ニ厚サ十尺ノ石英脉アリ、走向東西ニ亘ル、又鯛生村官有地ニ屬スル山
ノ山阜ニ數多ノ金鑛脉ヲ介在ス、是等鑛脉ニ就テ未タ充分ナル分析成
蹟ヲ得スト雖モ、此近傍ハ星野裏山ニ位スルヲ以テ金鑛脉ヲ胚胎スル
夥多ニシテ到底僅少日子ヲ以テ詳査スルヲ得ス、將來ニ金鑛業トシテ
望ミヲ屬スヘキ區域ニシテ充分ナル採鑛ヲ要スヘキ所ナラン、
以上要スルニ星野近傍ノ金鑛脉ハ其數饒多ニシテ地質、介在ノ形狀及
走向ヨリ察スルニ鑛脉日田郡ニ面シタル裏山ニ向ヒ亘ルモノ、如シ、

而シテ星野近傍ニ於ケル鑛脈ヲ視ルニ其數饒多ナルモ、鑛石品位ハ概シテ富良ナルモノニ非ス、又小稼行ノ數多姑息水車製鍊所アルモ舊式ノ淘汰法ニシテ改良ヲ加エサルモノ多シ、故ニ是等小稼行ノ金山ヲ合併シ水利ヲ充分ニ使用シ専門家ノ設計スルアレハ、將來ニ有望ナル區域トナラン、金山ノ業タル改良ニ尙ホ改良ヲ要スヘキコト一ニシテ足ラサルヘシ、當業者ノ宜シク反省スヘキコトナラン

星野本村ヲ西ニ下ル約一里、黒木谷村九星金山アリ、同村ノ西南ニ隆起スル安山岩ノ山岳アリ、其上腹ニ於テ近年三條ノ石英脈ヲ發見セリ石英脈ハ共ニ東西ニ并走ス、最北ニアルモノ厚サ一尺、南ニ約八間ヲ隔テタル中央ノモノ厚サ四尺、其脈ヲ尙ホ南ニ約四間ヲ隔テ最南ノ石英脈ヲ介在シ厚サ明ラカナラス、巡回シタル當時野崎某ノ起業中ニ屬シタリ、左ニ採集シタル鑛石分析成績ヲ示ス(分析課)百分中

甲 金〇〇〇〇三 銀〇〇〇〇二二
乙 同〇〇〇〇一 同〇〇〇一六四

丙 同〇〇〇〇一 同〇〇〇一五四

其他全圖幅内ニ於テ豊後日田郡上小竹村近傍ノ安山岩ニ金鑛脈ヲ胚胎スルアリ、舊坑ニ屬シ坑内ヲ踏査スルヲ得サリシヲ以テ、茲ニ記述スル能ハス、

圖幅ニ銅山極メテ少ナシ僅ニ八女郡横山銅山及佛野、木浦ノ休坑ニ過キス

横山銅山

筑後八女郡横山村字桑河内村ニ在リ、本山ハ明治廿年頃ニ着手シ爾來盛衰アリ、當今澁谷某ノ所有ニ屬シ、月額僅ニ荒銅二千四百斤ニ過キス

本山ノ地質ハ古生層ノ古凝灰岩及板岩ノ重層ニシテ、一條ノ鑛脈ハ層狀トナリ同重層ニ介在ス、層向略東西ニ亘リ南ニ約三十五度ノ斜角ヲ爲シ山阜ノ溪間ヨリ上腹ニ連ナリ露頭ス、下部ノ一坑及二坑ハ坑道以下水拔水準マテ採鑛ニ便ナル區域ハ既ニ採盡セリ、而シテ上部ノ新一坑及新二坑ハ山身ニ僅々百五十尺掘進シタルニ過キサレハ裏山ノ木

浦舊坑ニ向ヒ尙ホ採鑛シ得ヘキ餘地ヲ存ス、鑛脉ノ厚サ一定セス或ハ肥トリ或ハ薄貧トナル層狀鑛床ニ於テ屢目撃スルモノナリ、其稍肥大シタルハ厚サ四尺ニ達シタルアリト、鑛脉ハ冠ニ粘土ヲ加エ、趾ハ堅實ナル板岩ナリ、鑛石ハ黃銅鑛ニ黃鐵鑛ヲ雜ユル鹽基性ノ鑛種ニシテ有害物ヲ雜エス、撰鑛シタル鑛石分析成績ヲ左ニ示ス(分析課)百分中

銅 二一・五四 銀 〇・〇〇二二

銅山ニ於テ採掘シタル粗鑛ヲ撰鑛セハ約一割減ニシテ平均歩留リ六分乃至五分五厘ナリト謂フ

横山銅山ノ裏山ニ木浦舊坑アリ、横山銅山ノ鑛脉此所ニ亘ルモノニシテ、木浦舊坑ハ明治二十一年頃ヨリ三十二年ニ至ル間ニ稼行セラレ、該鑛區山麓ノ水抜水準マテハ既ニ採リ盡セリ

佛野銅山

横山村大字佛野ニ在リ、地質ハ横山銅山ト同様ニシテ介在セル一條ノ鑛床ノ形狀モ亦タ相似タリ、然レトモ鑛石ノ品位及鑛床ノ厚サ横山ニ

劣ルト謂フ、巡回ノ當時休坑ニ屬シ坑内ヲ窺フ能ハス、故ニ茲ニ記述スルヲ得スト雖モ鎔滓及鑛床胚胎ノ地質ハ共ニ相似タルモノナリ
其他肥前神崎郡背振山、杵島郡武雄近傍ニ黃鐵鑛ヲ散點スル箇所アリト雖モ應用材料トシテ供用セララルヘキモノヲ認メス

陶土及瓦土

陶土ヲ産スルノ地ハ藤津郡吉田村、杵島郡柄崎、佐賀郡都渡城及三養基郡白石近傍トス、吉田村及柄崎村ノ陶土ハ安山岩脉ノ温泉作用ヲ受ケタル爲メ鹽基物ヲ脱蝕シ粘土ヲ生出シタルモノニシテ吉田村ニ産スルモノハ其質淘汰シ易ク容易ニ白色土ヲ得、其比率土七分、砂三分ナリ、砂ハ通常鐵分ヲ雜エサルヲ以テ柞灰ヲ加エ釉藥材トス、需用品ニ從ヒ多少ノ有田土又ハ天草土ヲ加エ器地ヲ堅硬ナラシムルモノアリ、明治八年頃ヨリ改良ニ改良ヲ加エ當今産額ヲ増加セリ、當今製造家十四戸アリテ本燒窯八十九戸、素燒窯十八戸アリ、左ニ輓近ニ於ケル産額ヲ示ス

年 度	内 國 需 用	海 外 輸 出	合 計
明 治 廿 六 年	一、二三四、三三〇	一、四八〇、〇九〇	二、七二四、四二〇
同 廿 七 年	一、四七六、八七五	二、一八七、五〇〇	三、六六四、三七五
同 廿 八 年	一、五七五、九四〇	九六一、四一六	二、五三七、三五六
同 廿 九 年	二、二八八、九三三	九八〇、九七二	三、二六九、九〇五
同 三 十 年	一、九一二、七八四	一、二七五、一八九	三、一八七、九七三

製品ノ種類ハ奈良茶碗、湯呑、茶漬井、皿、朝鮮向食器、支那向食器等ナリ
柄崎村ニ産スル陶土ハ細粒ノ砂ヲ雜エ、水飛前者ニ較フレハ容易ナラ
ス、且ツ少量ノ雲母、鐵分等ヲ含有シ、其質吉田村産ニ較フレハ遙ニ劣ル
此地ニ於テ之ヲ採掘シテ陶器原料ニ供スルモノヲ見ス
佐賀郡、都波城、近傍ニ於テ分解シタル花崗岩一種ノ粘土ヲ産ス、多量ヲ
存在セスト雖モ、陶土原料トシテ應用シ得ヘキモノナラン、三、養基、郡、白
石、近傍ニ於テ閃雲花崗岩ノ分解シタルモノ陶土ヲ産ス、水飛砂六乃至
七分陶土四乃至三分ナリ、白石村ニ於テハ製造家十二戸計アリテ該陶

土ニ天草土ヲ雜エ下等ノ陶磁器ヲ製造ス、年額僅ニ四五千圓ナリ
圖幅ニ於テ瓦土ヲ産スルハ沖積層中ニ雜ハル腐蝕粘板岩或ハ花崗岩
質土砂ニシテ、其稍應用ニ適スルモノハ神崎郡、松尾村、尾崎村、佐賀郡川
久保村等ニ産スル粘土トス、尾崎村ニ於テハ土燒材料ニ供用ス、年額僅
ニ三千圓ナリ
藤津郡、西山、近傍ニ於テハ陶土原料ヲ天草石ニ仰キ、此所ニ陶工場ヲ設
ケ劣等ノ陶器ヲ製造ス
小城、杵島及松浦郡炭田ニ於テ炭層ニ介在スル一種ノ炭質粘土アリ、其
質耐火材ナルヤ否ヤ、之ヲ研究スルハ必要ナルコトナラン

砥材

砥材トシテ著シキモノナシ、杵島郡挾炭層ニ介在スル一種ノ砂岩ニ於
テ其質稍堅硬ナルモノヲ荒砥材トシテ供用スヘキモノアリ、地方ニ依
リ之ヲ砥石ト稱ス、該砂岩ハ稍大塊ニ採掘シ得ヘキヲ以テ、丸砥材ニ供
用シ得ヘキモノアリ

建築石材

圖幅ニ於テ建築石材トシテ僅ニ藤津郡鹽田石ニ過キス、鹽田村ニ於テハ其近傍ニ露頭スル綠灰色ノ安山岩ヲ切り採リ石碑、石臼其他臺石トシテ四近ノ地ニ需用アリ、岩理伊豆小松石ニ似タリ、
 杵島郡永島及小城郡西川ニ於テ安山岩ヲ佐賀郡都渡城ニ於テ花崗岩ヲ玉名郡相谷ニ於テ灰石ヲ採リ附近ノ堤防或ハ橋渠用ニ使用スルモノアリト雖モ販路狭マシ

鑛泉

圖幅内ニ湧出スル温泉ニ於テ火山岩ニ關係ヲ有スルモノハ武雄、山鹿及永島温泉ナリ、其他ノモノニ至テハ地質ニ關係シテ著シキ鑛泉所在地ヲ認メス、左ニ日本鑛泉誌ヨリ温泉ニ屬スルモノヲ拔翠シテ大要ヲ示ス

所在地	泉質	温度(華氏)	地質	摘要
武雄町	炭酸泉	百八十度	雲母安山岩中南北ニ亘ル裂罅ヨリ湧出ス	武雄町ニ在リテハ往來至便ニシテ四季浴客充満ス

永島村	同	冷温(?)	安山岩裂罅ヨリ湧出ス	僅ニ狹隘ナル浴場ヲ設クルニ過キス浴客少ナシ
山鹿町	硫黄泉	百 度	火山灰石層ヨリ湧出ス	山鹿町近傍數ヶ所ニ温泉ヲ散在シ往來便ニシテ四季浴客絶エス
武藏村	單純泉	百十四度	大花崗岩地ヨリ湧出ス	天拜山麓ニ位シ往來ニ便ニシテ四季浴客絶エス
古湯村	同	九十六度	同 上	小城郡ノ山間ニ位シ往來不便ナリ浴室數戸アリ

其他冷泉ニ屬スル尾島、上熊川、高良田及藤田村鑛泉アリ、是等ハ概子單純泉ニ屬シ第四紀層ヨリ湧出ス
 以上ノ佐賀圖幅地質調査ハ明治三十一年末ニ係ハルモノトス

明治三十四年三月卅一日印刷
明治三十四年七月八日發行

著作權所有 農商務省地質調査所

印刷者

東京市日本橋區兜町二番地東京印刷株式會社

齋藤章達

印刷所

東京市日本橋區兜町二番地

東京印刷株式會社

終